



●編集委員会

〈委員長〉

松本哲郎（市原市立中央図書館）

〈委員〉

青柳英治（明治大学文学部）

岩永知子（相模原市立図書館）

宇野亮一（国立国会図書館）

中村保彦（元文教大学図書館）

長谷川優子（元埼玉県立図書館）

宮原柔太郎（日本体育大学図書館）

米山 薫（多摩市立図書館）

*

●事務局スタッフ

秦 秀文・川下美佐子・星川智隆

●今月の表紙

大阪市立中央図書館所蔵

「興服太物商」（部分）

（明治期）

〈大阪市立図書館デジタルアーカイブ〉



VOL.118 NO.2 CONTENTS

窓●生成 AI を活用・評価した授業 ————— 角田裕之 64

こらむ図書館の自由●

改めて「個人情報」について考えてみませんか？－行政機関等匿名加工

情報に関する提案募集をめぐって ————— 山口真也 67

●NEWS ————— 65

告知板 … 66／新聞切抜帳 … 70

*

*

*

令和5年度(第109回) 全国図書館大会岩手大会ハイライト

理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える－希望ある未来は図書館と
ともに ————— 森本晋也 72

第1分科会／公共図書館

“つながる図書館” ————— 姉帯裕子 76

第2分科会／大学・短大・高専図書館

オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方 — 早川光彦 77

第3分科会／学校図書館

学校図書館活動の活性化 ————— 照井大道・及川浩純 78

第4分科会／児童サービス(1)

子どもと本とのよい出会いを ————— 安保和徳 80

第4分科会／児童サービス(2)

読書が子どもに与える影響 ————— 安保和徳 81

第5分科会／図書館情報学教育

日本の図書館情報学教育の現状：『日本の図書館情報学教育』調査から
————— 大谷康晴 82

第6科会／著作権

令和3年改正著作権法の施行後の動向 ————— 小池信彦 83

第7分科会／図書館の自由

戦争と図書館 ————— 小南理恵 84

第8分科会／障害者サービス(1)

SDGsと図書館、誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して
————— 村林麻紀 85

第8分科会／障害者サービス(2)

最新のICT技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す、

障害者の読書環境 ————— 村林麻紀 86

第9分科会／認定司書事業

日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから — 松本直樹 87

第10分科会／災害と図書館

災害と図書館 ————— 鈴木史穂 88

第11分科会／出版流通

地方における書店の役割と図書館 ————— 大場博幸 89

第12分科会／多文化サービス

暮らしの中の情報と多文化サービス ————— 村上健治 90

第13分科会／非正規雇用職員

指定管理者・委託で働く非正規雇用職員 ————— 利光朝子 91

第14分科会／市民と図書館

住民が取り組む図書館職員問題 ————— 尾形陽子 92

全国図書館大会に参加して●

夜空で輝く星をつなぐように ————— 堀内悠加 93

全国図書館大会潜入記 ————— 小田那津子 93

岩手へ、全国図書館大会参加記 ————— 宇賀田織部 94

* * *

小規模図書館奮戦記●その308／独立行政法人国際協力機構図書館（JICA 図書館）

国際協力の専門図書館「夢物語」への挑戦 ————— 本村 洋 97

霞が関だより●第243回

文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案 — 文部科学省 98

れふあれんす三題噺●連載その三百八／富士見市立中央図書館の巻

富士見市立中央図書館のレファレンス－覚え間違い、思い違い

————— 長谷川実 102

図書館員のおすすめ本●㊦

索引 ～の歴史 ————— 秋本 敏 104

中高生のための「かたづけ」の本 ————— 池沢道子 104

限界ニュータウン ————— 村上さつき 105

歴史を読み解く城歩き ————— 壬生あかり 105

* * *

●The Library Journal, February 2024

Highlight of the 109th All-Japan Library Conference 72-94

●日図協図書館新着案内 ——— 108

●協会通信 ————— 115

常任理事会 115

事務局カレンダー 119

●編集手帳 ————— 120

*「新館紹介」「ウチの図書館お宝紹介！」
は休載させていただきました。

●図書館雑誌3月号予告 ——— 120

●発行者

公益社団法人日本図書館協会©2024

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電 話 (03)3523-0811 〈代表〉

直 通 (03)3523-0816 〈編集部〉

F A X (03)3523-0841 〈代表〉

〈日図協ホームページ URL〉

<https://www.jla.or.jp>

〈JLA メールマガジン申込先アドレス〉

mailmaga@jla.or.jp

*本文は中性紙（冷水抽出 pH8.1）を使用



生成AIを活用・評価した授業

●
角田裕之

文部科学省は学生による主体的な学びの補助・支援などに活用される場合において、生成AIを使いこなすという観点を教育活動に取り入れるように大学等に通達した。次のテキストは授業において学生が生成AIで創作したビプリオバトルの原稿の抜粋である。例えば冒頭のくだりは読むきっかけとなったエピソードに関した単語を幾つか入力して創られた。「私は中学生のころ、旅行中に母にこのパーキングエリアはきれいで面白いといわれ調べてみたら、パーキングエリアが星の王子さまをモチーフにした装飾になっていた、街並みがきれいでした。その時は星の王子さまという本の名前は聞いたことがあったけど、読んでことがなかったの、気になって読んでみることにしました。」また内容に関しても「このテーマ『大切なものは目に見えない』は、物質的な豊かさや外見ではなく、心や精神の豊かさ、愛、友情、真実など、目に見えない価値や意味に焦点を当てています。」と創られた。学生からは内容の分析や魅力の伝え方、自然な文体に仕上がることへの感心の声が寄せられた。

また他の複数の授業で学生はChatGPT、Bing AI、Google Bard、Perplexity AIに、推薦図書

質問や『100万回死んだね』覚え違いタイトル集』（福井県立図書館）からも質問し提示された情報を採点し特性と性能を評価した。例えばワッフルに興味がある大学生の推薦図書を質問すると、ChatGPTから『ワッフルのすべて』著者：レベッカ・ウッズ、出版社：斎藤出版、出版年：二〇二一年、価格：一五〇〇円（税抜）この本は、ワッフルに関する基本から応用までを幅広く網羅しています。レシピだけでなく、歴史や文化的背景も丁寧に解説されており、大学生がワッフルへの理解を深めるのに最適です。『略』と、この他に二冊を提示されたがすべてが実在しない図書であった。一方地域や文学など質問によっては高評価な生成AIもあった。これらの授業を通して、「良い推薦理由を示すが誤情報をもっともらしく提示しかつテーマによって精度の差が大きく、生成AIに頼ってレファレンスサービスをするのは時期尚早では」との学生の感想もあった。現在生成AIの開発は急速に進展しており、間もなく図書館で活用されることを念頭に置き適切に使いこなせる学生を育てていきたい。

（つのだ ひろゆき／鶴見大学文学部）

令和6年能登半島地震について

2024（令和6）年1月1日（月）16時10分、石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。

この地震により震度7の激しい揺れを石川県志賀町で観測したほか、震度6強を七尾市と輪島市、珠洲市、穴水町で観測しました。また、地震発生直後に大津波警報も発表され、各地の沿岸に津波が到達しました。

このたびの地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早く平穏な日々に戻る事をご祈念申し上げます。

▶北陸4県の県立図書館へお見舞いと被災状況を確認

1月5日（金）、日本図書館協会は、被災された北陸4県の県立図書館にお見舞いのメッセージをお送りした。各図書館からは、被災後の大変な中、直後の状況について返信をいただいた。概要は以下のとおり。

○石川県立図書館（1月7日（日）時点）

- ・ 書架の一部が傾くなどの被害
- ・ 1月4日（木）は臨時休館
- ・ 1月5日（金）から開館
- ・ 県内公共図書館の状況

一部図書館で復旧作業中

参考： <https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/notice/4096.html>

○富山県立図書館（1月5日（金）時点）

- ・ 1月3日（水）、4日（木）に職員による復旧作業
- ・ 1月5日（金）から開館
- ・ 多数の蔵書が落下。エレベーター、電動書庫の損傷なし
- ・ 県内公共図書館の状況

一部図書館で復旧作業中

○福井県立図書館（1月5日（金）時点）

- ・ 1月4日（木）から開館
 - ・ 開架は本の落下1～2冊、書庫1～3階が資料の落下。集密書庫4階（電動書庫）は多数落下。全体の落下被害は約30万冊程度
 - ・ 県内公共図書館の状況
- 人的被害なし、施設の大きな被害なし、棚の転倒破損あり、1月4日（木）・5日（金）を休館する館あり

参考： <https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/tosyo/index.html>

○新潟県立図書館（1月5日（金）時点）

- ・ 書庫資料の一部提供不可
 - ・ 県内公共図書館の状況
- 1月4日（木）は休館する館あり。本の落下はあったが、施設などの大きな被害なし

参考： https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/blogs/blog_entries/view/1962/c4e082d8dfc94e7eccf060227cdabfb7?frame_id=1152

▶日本図書館協会「令和6（2024）年能登半島地震関連情報」ページを公開

このたびの能登半島地震に関連する情報をまとめたページを作成し、公開した。今後も随時更新していく

予定。

また、日本図書館協会図書館災害対策委員会では、これまでに集めた情報や課題を基に、復旧作業において注意すべき点をまとめて、公開した。参考としていただけたら幸いである。

引き続き、被災情報や困った事等について、下記メールアドレスまでお寄せいただきたい。

E-mail： saigai@jla.or.jp

令和6（2024）年能登半島地震関連情報： <https://www.jla.or.jp/committees///tabid/1058/Default.aspx>
図書館災害対策委員会「被災された図書館の皆様へ」： <https://www.jla.or.jp/committees///tabid/1059/Default.aspx>

▶国立大学図書館協会、令和6年能登半島地震による会員館の被害状況を公表

2024（令和6）年1月1日に発生した能登半島地震による会員館の被害状況をまとめたウェブページが公開された。今後も随時更新されるとのことである。

国立大学図書館協会のページ： <https://www.janul.jp/ja/news>
令和6年能登半島地震の被害状況

(2024.1.17現在) (国立大学図書館協会, 2024/1/5) : <https://www.janul.jp/ja/news/20240105>

▶国立国会図書館, 国立国会図書館
障害者用資料検索 (みなサーチ)
正式版を公開

2023年3月にペータ版を試験公開していたが, 障害当事者の意見を踏まえて改善を図り, 2024年1月5日より正式版を公開した。

みなサーチ正式版では, 国立情報学研究所が提供する読書バリアフリー資料メタデータ共有システム, およびCiNii Research収録の障害者用資料が新たに検索対象となった。また, 視覚障害者等用データ送信サービスの利用者登録手続きがオンラインで可能となっている。

2024年1月5日 読書バリアフリーの推進に向けて, みなサーチ正式版を公開しました : https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_02.html

国立国会図書館障害者用資料検索 (みなサーチ) : <https://mina.ndl.go.jp/>

▶北里大学看護学部図書館が閉館

北里大学看護学部図書館は, 看護学部の新校舎移転に伴い, 2024年2月29日をもって閉館することとなった。2024年4月以降, 同館の蔵書は医学図書館に移設される。ただし, 製本雑誌は当面の間利用ができない。2025年度秋には, 相模原キャンパスの図書館が統合され, 新大学図書館 (仮称) が開設される予定となっている。

問合せ先: 北里大学看護学部図書館
☎042-778-9829 E-mail : toshokan@nrs.kitasato-u.ac.jp

▶インド大使館内ヴィヴェーカーナ
ンダ文化センターより図書の寄贈
インド大使館にあるヴィヴェーカーナ
ンダ文化センターから, 日本とインドとの友好関係拡大のため, 日本国内の図書館にインドに関する図書の寄贈について申し出があった。図書の内容は, インドの観光, 社会文化に関する情報をわかりやすく, 写真を多用したものが主体である。インドに関する正しい情報を知ってもらい, これを広める方法として, 日本国内の図書館へ図書の寄贈を希望されている。

寄贈を希望する館は, 以下の宛先までご連絡いただきたい。

連絡先: 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-2-11 インド大使館
ヴィヴェーカーナ文化センター ☎03-3262-2882 E-mail : vcc.tokyo2@mea.gov.in

告知板

●ひと

<訃報>

●石塚栄二 (いしづか えいじ) 氏

2023年12月18日逝去, 享年97歳。
帝塚山大学名誉教授, 日本図書館協会会員。

1927年栃木県生まれ。和歌山県立図書館, 大阪市立図書館勤務後, 1976年4月より帝塚山大学助教授, 1982年4月より同大学教授を務め, 退職後同大学名誉教授。

日本図書館協会では, 図書館の自由に関する調査委員会委員長, 理事を歴任。1979年改訂された「図書館の自由に関する宣言」の起草委員を

務め, その普及に尽力された。またこの改訂を受けて, 1980年に制定された「図書館員の倫理綱領」の策定に関わり, 図書館員にとって基本となる宣言・綱領の成立に寄与した。

●志保田務 (しばた つとむ) 氏

2023年12月26日逝去, 享年86歳。

桃山学院大学名誉教授, 日本図書館協会会員。

1937年大阪府生まれ。芦屋大学附属図書館, 大阪府立大学附属図書館勤務後, 1978年より桃山学院大学助教授, 1986年同大学教授を務め, 2008年より同大学名誉教授。

日本図書館研究会理事・研究委員長, 日本図書館情報学会幹事ほか, 図書館学関係学会での要職を務め, 日本図書館協会では常務理事, 図書館学教育部会長を務められた。認定司書事業委員会の委員として, 同事業の立ち上げに貢献した。

●つどい

■図書館政策セミナー「公立図書館と公共施設等総合管理計画」

公立図書館の再編整備に当たっては, 図書館職員, 住民, 自治体行政において公共施設等総合管理計画との関係を理解することが大切です。この計画の動向や, よりよい公立図書館づくりにおける留意点や課題はどこにあるのかなどについて, いっしょに考えてみませんか。

主催: 日本図書館協会図書館政策企画委員会

日時: 3月10日(日)14:00-16:00 (13:30開場)

会場: 日本図書館協会研修室

講師: 松本直樹 (慶應義塾大学文学部人文社会学科図書館・情報学専

◆ NEWS ◆

攻准教授)

内容：講演、質疑応答・情報共有

※終了後、参加者自由交流、会場を移動して懇親会を予定

定員：60名（申込先着順）

※後日録画配信を予定（一定期間公開）

参加費：500円（資料代）（会場受付にてお支払いください）

申込方法：件名を「3.10図書館セミナー」とし、以下を記載の上、Eメールでお申し込みください。

1氏名、2所属、3連絡先（Eメール、電話のいずれか）、4懇親会の参加希望（希望者のみ事前申込（20名まで）：参加費4,000円程度・当日お支払い）

申込締切：3月4日（月）17:00（定員になり次第締切）

問合・申込先：日本図書館協会・秦
E-mail: kikaku@jla.or.jp ☎03-3523-0816

☐非正規雇用職員セミナー「自分を守るための法律と制度～非正規の労働問題～」

雇止めや残業代、有給休暇などが正当に支払われない等非正規の労働問題は多いと考えられます。しかし、実際にそのような問題に直面したとき、どうしたらよいかかわらずに途方に暮れてしまうのではないのでしょうか。具体的な事例をもとに、労働問題に詳しい山本志都弁護士から自分を守るための法律や制度を学びましょう。

主催：日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会

共催：NPO法人官製ワーキングプア研究会

日時：3月5日（火）13:30-16:00

こらむ 図書館の 自由

改めて「個人情報」について 考えてみませんか？

—行政機関等匿名加工情報に関する
提案募集をめぐる—

山口 真也

「個人情報」とはどのようなものなのだろうか。

従業員の平均年収を発表している企業があるとする。2022年は800万円、2023年は799.9万円という数字が公表されても、それは統計情報であり、個人年収を特定できるものではないように思われる。しかし、従業員数が「51人から50人に減少した」という事実が併せて公表されているとすればどうか。退職者1名分の年収は平均の差分から805万円と計算できてしまう。退職者を知っている人にとっては、立派な個人情報となるのである。

2023年4月からスタートした新しい個人情報保護制度の下では、「新たな産業の創出」と「活力ある経済社会や豊かな国民生活の実現」に資することを目指して、個人情報の利活用が求められている。こうした流れの一つとして、図書館にも関わる新制度が「行政機関等匿名加工情報に関する提案募集」である。

「匿名加工情報」とは「特定の個人を識別することができないように加工して得られる個人に関する情報」であり、「当該個人情報を復元して特定の個人を再識別することができないようにしたもの」と定められている。行政機関等の部署ごとに加工化を施したデータの利活用に関する提案を募り、審査によって外部へデータを提供できるようにするものが本制度である。当分の間は、国の機関や国立大学法人、都道府県、指定都市に義務付けられる制度とされ、提案募集を行わない判断も可能だが、すでにかかなりの数の大学図書館で利用者の登録情報を対象とする提案募集が始まっている。数は少ないが、「利用履歴」「貸出履歴」についての募集もある。

匿名加工化の基準は「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン」（個人情報保護委員会）等に定められている。しかし、具体的にどのような加工を施せば個人を識別できない状態になるのか、定量的な基準は示されておらず、グレーゾーンが存在するという指摘もあるようだ。

冒頭で挙げた例のように、一口に「個人情報」といっても定義はかなり難しく、検討の余地は残されている。「匿名加工化は個人情報の利活用における免罪符になる」とみなすことは時期尚早であると当委員会では考えている。

（やまぐち しんや：JLA 図書館の自由委員会、沖縄国際大学）

開催方法：リアル・オンラインのハイブリッド方式（事前申し込み制）

※申込者のみ、後日配信視聴可

会場：日本図書館協会研修室

講師：山本志都弁護士（NPO 法人官製ワーキングプア研究会副理事長）

対象：全国の非正規雇用職員および図書館に関心のある方

定員：80名（リアル・オンライン）

参加費：500円

申込方法：下記申込フォームから申し込んでください。

<https://forms.gle/rcVjiwnBsFC51Vnt6>

※お申し込みをいただいた方に、受講料の振込先をお知らせします。振り込み状況を確認後、あらためて参加アドレス等をお知らせします。

※リアル参加の方は当日会場でもお支払いいただけます。

申込締切：2月26日（月）

問合せ先：日本図書館協会・星川 ☎
03-3523-0816 E-mail: kikaku@jla.or.jp

※オンライン受講にあたっては、インターネット接続環境とPCが必要です。

※事務局からの連絡は原則としてメールで行います。PCからのメールが受信できるように設定してください。

■非正規雇用職員セミナー「会計年度任用職員の現在」

2020年度の制度導入から4年。公共図書館や学校図書館の現場を支える会計年度任用職員の雇用は、今どのようなになっているのでしょうか。参

加されたみなさんとの意見交換を通して、制度の実際と問題点、これからの改善の方向性について考えます。

会計年度任用職員制度の学習と情報交換、交流の会です。

主催：日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会

日時：3月25日（月）13:00-16:00

会場：基山町立図書館（佐賀県三養基郡基山町大字宮浦60-1）<https://kiyama.libweb.jp/>

内容：1 報告「見えてきた会計年度任用職員制度の問題点」小形亮（日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会委員長）、2 九州各地からの報告と情報交換・交流

参加費：無料

事前申し込み：不要

問合せ先：日本図書館協会・星川 ☎
03-3523-0816 E-mail: kikaku@jla.or.jp

■講演会「国立国会図書館の来た道、行く道」開催のお知らせ

国立国会図書館の歴史に関する著作『帝国図書館－近代日本の「知」の物語』および『夢見る「電子図書館」』の各著者を講師に迎え、これまでの長きにわたる当館のあゆみを振り返ると共に、出版流通・出版文化に詳しい永江朗氏をモデレーターとし、デジタルシフトの次の段階における当館の果たすべき役割を議論します。ぜひご参加ください。

日時：3月14日（木）14:00-16:00（開場13:30）

会場：国立国会図書館東京本館新館講堂（東京都千代田区永田町1-10-1）

プログラム：講演＝帝国図書館の遺産：国立国会図書館に引き継がれ

たもの（仮）（長尾宗典：筑波大学人文社会系准教授）、データを拓（ひら）く。国立国会図書館の電子化への道：書誌情報から電子図書館へ（仮）（中井万知子：日本図書館協会分類委員会委員長）／パネルディスカッション＝モデレーター（永江朗：著述家）、パネリスト（長尾宗典、中井万知子、竹内秀樹：国立国会図書館収集書誌部長）

申込方法：当館ホームページ「イベント・展示情報」(<https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/20240314lecture.html>)からお申し込みください。

申込締切：3月11日（月）

定員：200名

参加費：無料

問合せ先：国立国会図書館収集書誌部
収集・書誌調整課納本制度係 E-mail: nosei-event@ndl.go.jp

■図書館九条の会 第19回学習会「近代日本の戦争はどのように認識されてきたのか」

主催：図書館九条の会

日時：3月3日（日）13:30-15:30

会場：日本図書館協会研修室

講師：宇田川幸大（うだがわ こうた：中央大学准教授・日本現代史専攻）

内容：岩波ブックレット『私たちと戦後責任－日本の歴史認識を問う』の著者をお呼びして開催します。近代の日本が起こした戦争や植民地支配を、戦後日本の政治と社会が、どのように認識してきたのかについてさまざまな視点から語っていただきます。いま私たちがすべきことを一緒に考えま

NEWS

しょう。

参加費：無料、直接会場へ

※オンライン参加希望は、E-mail：
matsuo-shoji@jissen.ac.jp まで。

Zoom 招待のリンクをEメールで
送ります。

■ルリユール工房「書籍の修理と保存（基礎コース）」講座

日時：4月9日～原則として第2・
4火曜日（6か月・全10回）18：
15-20:15

会場：池袋コミュニティ・カレッジ
内容：本のクリーニング、保存容器
の製作、小規模修理、本の紙と革
について、ほか

定員：6名（定員になり次第締切）

講師：岡本幸治

受講料等詳細：下記問合先まで

問合・申込先：ルリユール工房（池
袋コミュニティ・カレッジ内
☎03-5949-5494 FAX.03-3984-
2755）

●その他

被災した図書館へ支援を 考えている皆様へ（お願い）

日本図書館協会では、これまでも
大規模災害の被災地支援に取り組
んでまいりました。

その中で得られた教訓をもとに、
被災した図書館への支援を考えてく
ださる皆様へ以下3点をお願いした
いと考えています。

(1) 被災地へ本を送ることはやめま
しょう

緊急支援物資並びに支援物資で、
被災地、特に避難所に直接本などを
送るのはやめましょう。

置き場所に困る、読書ニーズのミ
スマッチなど、東日本大震災をはじ
め多くの災害でこれまで課題となり
ました。

被災地から要請が出てくるまで
は、本を送らないようにしましょう。
被災地から要請が出た際には、日本
図書館協会も広報の協力をしてまい
ります。

(2) 被災地への問い合わせは控えま
しょう

住民への連絡など、災害対応や復
旧作業で被災地は年始から奮闘して
います。

直接問い合わせをすることは、業
務の妨げとなります。

被災地のホームページを確認した
り、下記のサイトも参考にして、ま
ずは状況を確認しましょう。

saveMLAKのウェブサイト：[https:
//savemlak.jp](https://savemlak.jp) 【2024年（令和6
年）能登半島地震】ページ

(3) 被災地への関心を持ち、できる
支援につなげましょう

被災された方は、余震と寒さに加
え、非日常の避難所生活などに耐え
ています。多くの困難が待ち受ける
中、復旧作業が続く、復興までは長
い道のりです。興味関心を持ち、
エールを送り続け、傾聴することが、
被災地にとって励みになります。

ただ、今後多額の費用が必要とな
ります。個人の支援よりも、団体や
自治体などが設置する募金活動に参
加する事をおすすめします。

被災した図書館の支援のために、
日本図書館協会では「図書館災害対
策のための指定寄附金」も募集して
おります。

いただいた寄附金は、災害の被害

を受けた図書館の復興支援のために
使用いたします。

詳細は以下URLよりご確認ください。
い。

どうか皆様のご協力をよろしくお
願い申し上げます。

公益社団法人日本図書館協会への寄
附について：(2) 指定寄附金 1.
図書館災害対策のための指定寄附
金 <https://www.jla.or.jp/jla/tabid/457/Default.aspx>

◆日本図書館協会学校図書館部会夏
季研究集会「報告集」のお知らせ
2023年7月に開催された日本図書
館協会学校図書館部会第51回夏季研
究集会の「報告集」が完成しました。

本田由紀氏（東京大学大学院教育学
研究科教授）の講演記録や、湯川康宏
氏（埼玉県立飯能高等学校「すみっコ図
書館」学校司書）の報告ほか、盛りだ
くさんの内容となっています。

・報告集をご希望の方は、学校図書
館部会Eメールアドレスからお申
し込みください。

・頒価は、1,000円（送料込）です。

・各地域や集会等で販売くださる場
合は、必要部数をまとめてお送り
しますでお知らせください。

学校図書館部会連絡先：E-mail：ga
kutobukai@jla.or.jp

◆1月号「新館紹介」訂正とお 詫び

1月号p.12

香取市立佐原中央図書館

(誤)開館 2022年12月15日

(正)開館 2022年12月25日

関係者の皆様にご迷惑をおか
けいたしましたこととお詫び
し、訂正させていただきます。

新聞切抜帳

●全国

▶電[子出版制作・]流[通]協[議会]
電子図書館数415館に 自治体導入率は29.1% (新文化11/2)

▶働き続けたいのに… 希望者は無期雇用に転換を 会計年度任用職員制度 住民サービスにも黄信号 22年働いた司書も ハラスメント生む 日本共産党の提案 (赤旗11/8)

▶学校図書館も居場所 答申素案に明記へ こども・若者の意見を反映 [こども家庭審議会] (教育11/9)

▶全国初 マイナンバーカード活用の電子図書館サービス開始 福島県昭和村、岐阜県美濃市で 電子図書館の利用がオンラインで即時可能 誰でも・どんな場所でも (教育家庭11/20)

▶補正予算 論文の無償活用推進 アクセス性向上 文[部]科[学]省が100億円 / 研究機関の競争力 データ活用人材 論文即時公開で潮目変わる 分野・機能別に専門性必須 不正抑止/モデル共有・暗号化/AI ツール化 兼業奨励へ意識改革 複数機関で複数雇用を (日刊工業11/21)

▶[追跡]学術誌もうけすぎ? 電子購読料10年で1.5倍 「ネット掲載料は別コスト」 国の資金は減少 (毎日11/25)

▶学校図書 進まぬ代謝 全国[学校図書館]協議会調査 時間・人手が不足 「廃棄せず」中学[校]22[.3]%, 高校37[.3]%, 小学校13.9% [学校図書館調査] (読売12/3)

▶[スキャナー]国際学力調査[「国際学習到達度調査」(PISA)] 日本「読解力」急伸3位 思考・表現力重視の授業結実 理数系上位維持 読解V字回復 「PISA型」育成 課題は克服? コロナ休校期間 成績に影響 (読売12/6、関連2紙)

▶点字や録音図書 無料で貸し出し [文字・]活字文化推進機構 [「読書バリアフリー体験セット」] (読売12/7)

▶学校の図書館に異空間 人工芝やキッチン併設 語り合い、学ぶ場に先生と生徒結ぶ あたたかみ重視 [ラーニングコモンズ ドルトン東京学園、自由学園、早稲田中学校・高等学校] (日経12/9夕)

▶[学べる]新聞購読 平均2紙未満 [全国学校図書館協議会 学校]図書館調査で小中[学]校 国目標達せず (読売12/12)

▶[くらしと経済]本が読める地域の新拠点 各地に広がる私設図書館「相談所」[「みんなの図書室ほんむすび」] リビング[「暮らせる図書館」] (長崎12/14)

▶障害者も読める本普及へ 学校・図書館へ導入促進 点字*大きな活字*絵記号*PC活用 電子書籍の充実願う 多様な方法 取り組み「道半ば」[「りんごの棚」など] (読売12/18)

●北海道・東北

▶子どもの遊び場3階に 1, 2階はカフェや図書館 26年開設 湯沢市複合施設 (秋田魁新報10/17、関連2紙)

▶[話題の十字路]長井[市]・くると 来館者10万人突破 新たなにぎわい空間に 高い集客力 中心街にも波及期待 [図書館など] (山形10/26)

▶故早乙女貢さん基金 ゆかりの会津若松市が[文化振興基金]設立へ 学校図書、郷土資料を整備 (毎日[福島]11/6)

▶今こそ平和を考えて 生誕150年 朝河貫一の伝記漫画[「マンガで読む歴史学者・朝河貫一」]出版 [福島]県内の[中学・高校・特別支援学校]全346校に寄贈 [朝河貫一博士顕彰協会] (毎日[福島]11/22)

●関東

▶前橋市教[育]委[員会] 図書館新本館の基本計画を策定 (上毛10/17)

▶児童書いっぱい「魔法の文学館」 角野栄子さん館長 江戸川[区]で来月3日開館 (東京10/18、関連4紙)

▶電子書架ウェブ公開 [東京]都立図書館、8日から試行 (日経[首都圏]12/5)

▶図書館[貸出]カードにみずはまる登場 [東京都]瑞穂町 (読売[多摩]12/7)

▶「たま」がつないだ縁 車雑誌寄贈「プリンス」元編集長、[職業能力開発総合大学校]図書館へ (朝日[東京]12/12)

▶雑誌の記事検索 さらにしやすく 大宅壮一文庫 機能刷新 (長崎12/13)

▶[小学校]蔵書数達成[約]16% 横浜市の学校図書館 国の目安下回る [中学校は約35%] (神奈川10/13)

▶26年度以降に着工 豊岡町複合施設 工期短縮へ手法検討 横浜市[鶴見図書館など] (建設通信10/23)

▶街角に小さな本棚 [横浜市]都筑[区] 13カ所で無料貸し出し [「リトル・フリー・ライブラリー」] (神奈川11/16)

●甲信越・北陸

▶移動図書館が出発 五泉[市立図書館] 中山間地に「読書の秋」運ぶ (新潟日報10/4)

▶新図書館複合施設が起工 市長「知の拠点に」 妙高[市] (新潟日報10/19)

▶ボードゲーム白熱、人気 [砺波市立]砺波図書館 242セット 全国有数の所蔵 県内外から利用、視察続々 (富山10/12)

▶「優れた政策」デジとしよ[信州]受賞 全国知事会「先進政策大賞」[プラチナ構想ネットワーク]地域パートナーシップ賞 (読売11/26)

NEWS

● 東海

▶ 図書館の本 離島の子どもに 熱海[市立図書館] 中心街から初島小・中[学校]へ「喜ぶ姿原動力」漁協職員が配送 (静岡10/16)

▶ [静岡県]県内公立図書館 半数超に浸水リスク 想定区域の2割 対策「できていない」 本紙アンケート / 予算、人員… 静岡[市立南部図書館] 地下書庫2万冊廃棄も 県内浸水想定区域の図書館 蔵書の防災厚い壁 デジタル化や本の避難訓練必要 [吉田町立図書館、沼津市立図書館の対策を取材] (静岡11/12)

● 関西

▶ [地域プラス]滋賀県立図書館「週休2日」の訳「知の拠点」苦肉の人員削減 多彩な蔵書、正規司書の多さ強みも 図書費「全然足りない」 16年には議題に 市町立館を支援 ジャンル充実の書架 世界広げる読書体験 田村俊作・石川県立図書館長に聞く もっと楽しく、工夫余地大きい (京都11/11)

● 中国・四国

▶ [鳥取市立]気高図書館 20周年祝う 記念企画楽しむ (日本海11/7)

▶ [鳥取]県立図書館 電子書籍サービス導入 学術書や専門書 1500冊、全県の住民利用可 (日本海12/6、関連2紙)

▶ 気軽に本に親しんで 移動図書館車を披露 就労支援施設など巡回へ 境港市 (日本海12/15)

▶ [新・地域考]「知の拠点」新たな課題 岡山県立図書館 / 岡山県立図書館20年目 変わる時代 将来像模索 予算確保や電子書籍対応 山陽学園大[学] 菱川広光特任教授 方向性示し県民と共有 (山陽10/8)

▶ [岡山]県立図書館 貸し出し2500万冊突破 開館19年 当初予想より26年早く 読書好き移住して 岡山

[県]の充実環境 PR 来月26日、県立図書館 (山陽10/31)

▶ 全世代集う交流拠点に 倉敷[市] 市役所東側複合施設の基本計画案 図書館核5施設集約 28年度利用開始予定 (山陽11/3)

▶ 18年西日本豪雨 岡山[県]・倉敷[市立]真備図書館 1階水没12万7000冊失う 貴重な郷土資料も被災 (静岡11/12)

▶ 阿南市 新図書館核に方針具体化 [JR 阿南]駅周辺まちづくり計画 (建設通信11/21)

▶ 障害者がイラスト 図書館バッグ 寄贈 [徳島県]東みよし[町]の施設「博愛ヴィレッジ」13種類本の貸し出し用に (徳島12/2)

▶ 来館者600万人突破 徳島市立図書館 アミコ[ビル]移転後 (徳島12/12)

▶ 明治期 京都での取引示す 阿波藍販売看板発見 岡[進]さん(つるぎ[町]移住) 北島町立図書館に寄贈 月末まで関連資料と展示 [徳島県] (徳島12/18)

● 九州・沖縄

▶ 「雑誌スポンサー」図書充実 企業などが購入費負担 カバーに広告 取り組み11年 114誌中48誌に 筑後市立図書館 経費節減も (読売11/18)

▶ 夢野久作の日記デジタル公開 本は絶版 近代史考える資料に 福岡県立図書館 (西日本12/16)

▶ 開館30周年計画の大規模改修延期へ 佐賀市立図書館 (佐賀12/15)

▶ 唐津市の図書館 マイナ[ンバー]カードで貸し出しOK 来年1月から、県内初 (佐賀12/1)

▶ [県議会]学校司書[長崎]県内2校に1人 公立小中[学校]89.4%配置 (長崎12/12)

▶ 熊[本]大[学]施設に命名権設定 学生採用へ企業 PR の場を 来春開始へ契約先募集 [図書館など] (西日本[熊本]11/29)

▶ 子どもたちに本を 寄付続々 上天草市の新[大矢野]図書館 「善意に感謝」蔵書6万冊目標 (熊本日日12/14)

▶ 図書館収蔵もう限界 公立の大半、スペース余裕なし 処分や増設追い付かず [大分県] (大分合同12/4)

▶ 別府市の新図書館工事 JV[奥村・幸建設工事共同企業体]、32億円で落札 (大分合同12/8)

▶ [宮崎]県教[育]委[員会] 公立図書館施設全県調査へ 収蔵状況把握、役割見直し (宮崎日日12/2)

▶ 読んだ本ためてみない? 延岡市[立図書館]「図書館通帳」発行 (朝日[宮崎]12/10)

▶ 南大隅[町]根占図書館が140周年 創設者へ思いはせ 故磯長[得三]氏、青少年育成に尽力 [鹿児島県] (南日本11/27)

▶ 書庫収容年数先延ばし検討 [鹿児島]県立図書館 (南日本12/9)

▶ 新[沖縄]県立図書館 来館200万人 あす開館5年「知の拠点」蔵書94万冊 (沖縄タイムス12/14)

今月も阿部千春様、石井一郎様、鎌田梨奈様、岸本修様、桑原芳哉様、野口敏太郎様および新潟県立図書館、山梨県立図書館、県立長野図書館、筑後市立図書館の皆様より記事の提供を受けました。ありがとうございました。

■ 1月号「新聞切抜帳」の訂正とお詫び
p.11左段下から11行目
(誤)茨城市
(正)茨木市
関係者の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことをお詫びし、訂正させていただきます。

令和5年度(第109回)全国図書館大会岩手大会ハイライト

理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える

— 希望ある未来は図書館とともに —

☆☆☆

森本晋也

2023年11月16日(木)と17日(金)の2日間、岩手県盛岡市において4年ぶりに対面による全国図書館大会が開催された。岩手県においては初めての開催で、「理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～」を大会テーマに、マリオス(盛岡地域交流センター)とアイーナ(いわて県民情報交流センター)を会場に、約670人の参加があった。

第1日目は、マリオスの大ホールを会場に開催された。オープニングアトラクションとして、岩手県立不來方高等学校音楽部による岩手ゆかりの「星めぐりの歌」(宮澤賢治作詞・作曲)「ふるさとの山に向ひて」(石川啄木作詞)と「花は咲く」の3

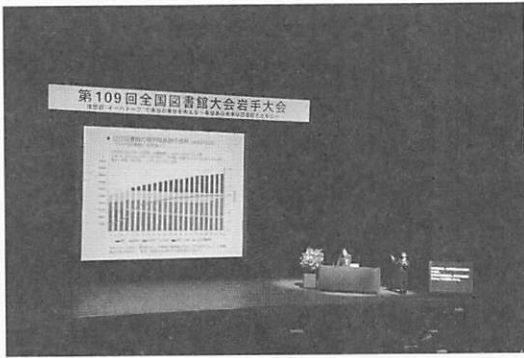
曲の合唱が披露され、美しい歌声が会場に響き渡った。開会式では、大会会長の達増拓也岩手県知事と大会副会長の植松貞夫日本図書館協会理事長の挨拶、内館茂盛岡市長(代理:多田英史盛岡市教育長)からの歓迎の挨拶があった。その後、第39回日本図書館協会建築賞の表彰式が行われ、東京都板橋区立中央図書館並びに設計者株式会社松田平田設計が表彰された。

【基調報告】公益社団法人日本図書館協会 植松貞夫理事長

植松理事長より、協会の活動報告や図書館をめぐる昨今の動き等の説明があった。図書館職員の非常勤職員の割合の増加や委託派遣に置き換える顕著な傾向があり、都道府県知事や政令指定都市を含む市長、東京都特別区の区長宛に、非正規職員の処遇改善の要望を行ったことが報告された。また、「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」の第一次提言に関わる対応や著作権法改正に基づく図書館等公衆送信サービス、デジタル化の一層の進展により読書離れが進んでいる状況等の説明があった。図書館として、読書習慣のある人や図書館利用者を増やすこと、予算獲



▲岩手県立不來方高等学校音楽部の合唱



▲植松理事長の基調講演

得の上からも「存在感ある図書館」を目指すことなど、図書館界で取り組んでいくべき具体的な内容について説明された。

【記念講演】 国立天文台水沢 VLBI 観測所所長・教授 本間希樹氏

「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」と題して記念講演が行われた。

最初に、ご自身が執筆された5冊の著書の紹介があった。そして、公共図書館の統計(2022年)から、図書館数が3,305館、利用者が約5,700万人、蔵書数が4億6,000万冊あり、人類の知見が蓄積されている凄さについて紹介があった。そして、1冊2冊の本が、科学の歴史を劇的に転換させることがある例として、『解体新書』や東京都三鷹市にある国立天文台図書室所蔵のフランスの天文学の原書をオランダ語に訳した『ランデ暦書』について説明された。また、間違えの多かった『解体新書』を改訂したのが岩手ゆかりの大槻玄沢で、この人物が江戸幕府の天文方の蕃書和解御用でいろいろな翻訳事業に関わっていたこと、蕃書和解御用が現在の東京大学や国立天文台の源流機関の一つとなっていることなどの説明があった。

明治時代に岩手県奥州市水沢に観測所が選ばれた理由と観測所の設置に関わった岩手ゆかりの科学者田中館愛橘の活躍、水沢観測所の歴史と施設

の紹介があり、宮澤賢治と水沢観測所との関わり、ブラックホールの不思議、国際プロジェクトでブラックホールの影を撮影することに成功したこととその意義についての紹介があった。

最後に、研究者から見た図書館への期待について話された。図書館は人類が長年かけて蓄積した知的成果物の宝庫・貯蔵庫であること。デジタル化社会においてこそアナログの図書館に意義があり、例えば資料保存の永続性の問題や、本の重さや紙の質感、ページをめくる感じなど五感での刺激により理解が深まること。そして、図書館では探した本とは別のもの、予想外の発見や出会いがあり、そこから新しいものが生まれること。アナログの良さを残し、人類が続く限り図書館には榮えてほしいという思いが述べられた。

岩手にゆかりのある人物の紹介や宇宙の不思議をはじめ、ブラックホールを究極の飲ん兵衛に例えてのユーモアあふれた分かりやすい解説など、大変興味深い講演内容であった。

講演の中から宮澤賢治と水沢観測所の関わりやブラックホールについての内容を一部紹介する。

宮澤賢治と水沢観測所・ブラックホール

宮澤賢治が、水沢観測所に少なくとも2回、もしかすると3回以上来たことが分かっている。賢治は宇宙が好きで、宇宙をテーマに、観測所を題材にいろいろな作品を書いている。観測所を訪れ、作品のインスピレーションを得ている。賢治が来たときは、大正時代の建物が活躍していたことになる。賢治の作品をひもとくと、緯度観測所が実名で、あるいは水沢の天文台という名前で登場する。一番有名なのは、『風野又三郎』。皆さんが知っている『風の又三郎』の前駆的作品と言われていて、木村先生(水沢観測所の初代所長)がテニスを行っているシーンが出てくるが、実際に木村先生はテニス好きだった。木村先生がテニスをしていて、妖精の又三郎が旋

風を吹かせて、そのボールを曲げて邪魔するシーンもある。『春と修羅』の詩集や『土神と狐』などに、細かく読んでもらえると観測所がでてくる。

そして、賢治の『銀河鉄道の夜』とブラックホールが実はつながっている。『銀河鉄道の夜』は、宇宙を鉄道で旅をする話だが、釜石軽便鉄道、現在の釜石線の花巻から釜石に向かう鉄道がインスピレーションの一つになっている。釜石は、製鉄の街で、鉄鋼石がとれて、鉄を産業としている。鉄ができる現場は、星の最後の大爆発である。例えば、炭素でも酸素でも、私たちの体を作っている元素は、すべて宇宙からきている。すべて私たちは、宇宙のかけらとか星のかけらからできている。星は、それ以上燃えることができなくなって、自重でつぶれ支えきれなくなって、大爆発を起こす。超新星爆発のとき、鉄があちこちにまき散らされる。これが次の星を生むときに、重力でその星の周りから取り込まれて、例えば地球の地面に現れた鉄になる。鉄の一粒を取り出して、もし時間を何十億年と巻き戻すことができれば、必ず星の真ん中に、星の爆発に行き当たる。重い星が爆発するとき、ブラックホールができ、そのときに一部の鉄が放り出され、地球に積もって、岩手の鉄になり鉄道が走って、銀河鉄道が生まれた。非常に無理を言えば、ブラックホールのおかげで、賢治の銀河鉄道のレールが生まれた。

ブラックホールの撮影の意義

私たちの観測所は、水沢 VLBI 観測所と、横文字が入っている。天文学の専門用語で、「Very Long Baseline Interferometry」の頭文字をとったもので、日本語にすると「超長基線電波干渉計」と言う。水沢の電波望遠鏡と同じものが、鹿児島県、東京都の小笠原村父島、沖縄県の石垣島の3か所にある。同じ星を同時に見て、そ



▲本間希樹氏

れぞれの場所で記録したデータを持ち寄ってかけ合わせることで、直径2,000kmの巨大な望遠鏡を合成することができ、その技術がVLBIである。

ブラックホールの本体は、真ん中に無限に小さな点がある。星は、一度潰れだすと誰も止めることができず、無限に小さくなるまで潰れるしかない。星が燃え尽きた燃えカスとして、特異点となる。地球も実は今も潰れようとしているが、中が高温高压で押し返しているので、潰れないでブラックホールになっていない。もし地球の真ん中の圧力がゼロになってしまったら、地球もブラックホールになってしまう。

天の川の中心にブラックホールがあるらしく、かすかに電波を出していて、無茶苦茶に視力を上げて観測したら、ブラックホールが見えるのではないか。そう考えて世界が協力して、イベント・ホライズン・テレスコープ (EHT) というプロジェクトを立ち上げ、地球サイズのVLBIを実現し、直径1万1,000kmの望遠鏡ができた。300人以上いる非常に大きな国際プロジェクトで、私は日本チームのまとめ役だった。最初に撮られた写真はM87で、ウルトラマンの故郷とも言われている。実際には10年以上かけて準備して観測したが、ある銀河の真ん中をひたすら拡大したら、輪っかみたいなのが出てきて、

ブラックホールがここに影として映っている。ブラックホールの周りでは、時間と空間がゆがむので、光が巻き付きながら吸い込まれ、変な方向に向きが変えられるものもある。私たちの写真では、光っている部分よりも穴が大事で、それこそがブラックホールの影である。これは何を意味しているかという、ブラックホールからは光さえ脱出できない。これが目に見える形で示されている。

(最終的に配信されたブラックホールの写真を提示して)日本チームの活動を紹介すると、写真を撮る画像分析にかなり力を入れた。10億人以上が見たと言われる写真は、従来の方法に、アメリカが新しく開発した方法と日本が提案した新しい手法の三つの画像分析の平均を映したものである。

100年前の科学者は、銀河が星の集まりだとは知らなくて、それを解き明かそうと銀河の写真を片っ端から撮り、銀河の真ん中が明るく光っているのを発見した。100年続いた二つの疑問「ブラックホールは本当にあるのか」「銀河の真ん中にあるものは何か」について、この写真を撮ることで、その最終的な終止符を打つことができた。100年かけて解こうとしてきたジグソーパズルの最後の1ピースが埋まった。ブラックホールが存在することを示すパズル、銀河の真ん中がブラックホールであることを証明するパズルである。

次年度開催県挨拶

次年度の開催地である長崎県立長崎図書館池田浩館長より、大会テーマや開催方法等の説明があり、長崎の新しい文化を創造する風土で、「次の図書館を創造する」大会にしていきたいとの意気込みが紹介された。

4年ぶりの対面での懇親交流会

ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて、懇親交流会が開催された。懇親交流会には約250名の参加があり、岩手県教育委員会佐藤一男教育長から歓迎の言葉や文部科学省の八木和広社会教育振興総括官から挨拶等があった。また、アトラクションとして、「太田さんさ踊り保存会」の方々による盛岡の伝統さんさ踊りの披露もあり、「サッコーラー、チョイワヤッセ〜」という掛け声とともに、エネルギッシュな太鼓と華やかな踊りで会場が包み込まれた。久しぶりの対面での開催で、多くの方々が交流を深めることができた。

活発な議論が行われた第2日目

第2日目は、マリオスとアイーナを会場に、14の分科会が開催された。先進的な事例報告やこれからの図書館のあり方等に関する講演、課題を解決していくためのディスカッション等が活発に行われ、どの分科会も充実した内容となった。

展示は、マリオスの大ホール前やアイーナ4階の県民プラザ等において、日本図書館協会や協賛企業、大会実行委員会による岩手県内の図書館紹介パネル等の18のブースが設置され、多くの来場者でにぎわった。図書館や読書活動推進に関するさまざまな情報を得ることができた。



▲分科会の様子

(もりもと しんや：岩手県図書館協会長、岩手県立図書館長)

★第1分科会

公共図書館★

“つながる図書館”

—— 幸せと希望を実現する公共図書館の試み ——

姉帯裕子

基調講演と3館の事例報告後にディスカッションを行った。参加人数は午前午後合わせて228名であった。

基調講演「図書館のネットワークが県民の幸せと希望を実現する」

小林隆志氏（鳥取県立図書館館長）

県立図書館として実施してきた館内外の活動を基に講演いただいた。特に県域を網羅する市町村立図書館支援は全国トップクラス。予算面・人員面で課題を抱える市町村立図書館にも積極的に出向いて講座やイベントを実施。

「図書館は情報を提供する場で、利用者からのレファレンスは職員を鍛える良い機会である。」「皆さんの相互支援は十分ですか？」という言葉は、当日の参加者のみならず、図書館職員として常に心に留めておきたい。

事例報告「暮らしに寄りそう図書館～町民とともに～」

角田有希子氏（鳥取県南部町立図書館館長）

長年地域と関わり、住民とその暮らしに寄りそう活動に取り組む南部町立図書館の他部署との連携、町の図書館協議会との関わり、また鳥取県立図書館との連携事例を報告いただいた。地元住民との交流から図書館の敷居の高さに気付き、利用しやすい図書館のPRを自治体の広報だけではなく、ケーブルテレビからも発信するなど、多角的かつ精力的に活動している様子が伝えられた。

事例報告「東日本大震災でのつながりについて」

平留美子氏（岩手県洋野町立種市図書館館長補佐）

東日本大震災発災直後の活動をはじめ、その後設置された相互応援体制について、「岩手県公共・大学・専門図書館等連絡協議会の加盟館相互の応援について」を基に説明。平常時からの近隣図書館との交流、発災時の取り組みを共通認識することの必要性を訴えた。



また、図書館として「記録の保存」に努め、後世につなぐ役割の重要性を説かれた。

事例報告「地域図書館の挑戦」

種田滯氏（愛知県豊橋市まちなか図書館館長）

まちなか図書館の「人が主役の図書館」という考え方とそのためのデザインや展示・企画について紹介。図書館を使ったことがない人も行きたくなる場・新しい発見が見つかる場づくりを明確なコンセプトとして活動。本だけではなく、人や情報との出会いに重点を置くことで新たに生まれるものに、図書館が関わっていく姿を伝える。

ディスカッション「つながる図書館を実現するには」司会：藤岡宏章氏（前・岩手県立図書館館長、嘉悦大学客員教授）、パネラー：発表者

前述の報告を踏まえて、改めて図書館同士・利用者や地域とのつながりを構築するために何が必要なのか。そして問題があるとすれば、解決するためにはどうすればよいか、パネラーの知見を基に伺い、その方策について意見交流を行った。

（あねたい ゆうこ：久慈市立図書館）

★第2分科会

大学・短大・高専図書館★

オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方

早川光彦

本分科会は、基調講演と五つの講演および事例報告、パネルディスカッションを行った。参加者は午前79名、午後70名であった。

基調講演「「オープンサイエンス時代における大学図書館」はどうあるべきか：「検討部会」の審議内容を中心に」竹内比呂也氏（千葉大学副学長）

2022年2月、科学技術・学術審議会のもとに「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会」が設置された。「2023年審議のまとめ」ではDXを前提とした新しい研究システムや変化に対応した大学図書館が有する機能の検討、国と各大学の取るべき方策や在り方の提示を目指した。また、これまでの「電子図書館」構想をさらに発展させたものを「デジタル・ライブラリー」として、運営やサービス、職員の知識やスキルを変革し、みずからのDXを推進する大学図書館のことを指していると定義した。なお、国立国会図書館で図書、雑誌等のオンライン送信が可能となり、大学図書館はこれと相互補完的なデジタル化を進め国としての統合的なデジタル・アーカイブ基盤構築の方向性を示したとしている。最後に、大学図書館は、明らかに従来とは違うレベルで転換を求められている。スピード感を持って変化することが必須である。これは時代に即した大学図書館本質の実現であるとして基調講演を結んだ。講演「オープンサイエンス時代における大学図書館への期待」船守美穂氏（国立情報学研究所准教授）

今後の大学図書館では機関リポジトリをはじめとした研究データの権利保護戦略が必要になり、大学図書館員の役割の重要度が増していく内容が解説された。

事例報告「電子ジャーナルの転換契約」村上康子氏（千葉大学附属図書館利用支援企画課長）

出版社に対して大学が支出する従来のジャーナル購読費と研究者が支払うAPC（論文掲載料）を合わせて契約する一連の取り組みが報告された。



講演「配慮を必要とする発達障害の学生への理解と支援」長田洋一氏（盛岡大学文学部教授）

障害のある学生に対して大学図書館に期待される役割として、居場所の確保、コミュニケーションの場、社会復帰のきっかけの場の三つの提案が話された。

講演「大学図書館をDXする」野中雄司氏（富山大学研究推進部学術コンテンツ課長）

大学図書館の成長には職員が少し「はみ出す」環境づくりが求められる。自組織での「はみ出す」ための環境づくりおよび全国的なコミュニティでの対話を増やす環境づくりについて述べた。

講演「今後のメタデータ流通を担う人材を考える」飯野勝則氏（佛教大学図書館専門員）

大学図書館職員について、NACSIS-CATの書誌レコードを一から作成でき、多様なメタデータスキーマに対応できる人材育成の重要性が解説された。

講演「これからの大学図書館職員のあるべき姿とは？」檜原啓一氏（東北大学附属図書館総務課専門員）

大学図書館職員は積極的に図書館外にアプローチすべきである。そして最も重要なことは「大学図書館はこうあるべき」という概念をアップデートすることであると指摘した。

その後のパネルディスカッションでは各講演者の補足説明と質疑応答が行われた。

（はやかわ みつひこ：富士大学）

★第3分科会

学校図書館★

学校図書館活動の活性化

—— 学校の「魅力」発信 ——

照井大道・及川浩純

●午前の部

午前の部では、学習指導要領に示される「読書センター」「学習センター」「情報センター」という学校図書館の三つの機能を踏まえ、小・中学校における事例報告や情報共有を通じた「学校の『魅力』発信」を企図し分科会を構成した。

冒頭では、公益社団法人日本図書館協会学校図書館部会幹事高橋恵美子氏の挨拶があった。

基調講演

仙台市図書館学校連携事業の試み～GIGAスクール構想を踏まえた学校支援～

浅野 佑一（仙台市教育局仙台市民図書館主査）

まず、GIGAスクール構想の具現化に向けて先駆的な学校支援を行っている仙台市民図書館の取り組みについて講演をいただいた。「1. 読書活動の推進」「2. 学習活動支援」「3. 新たな学校支援」という三つの項目についての内容である。

「1. 読書活動の推進」として、テーマ別や小学校朝学習向けのパッケージ貸出、特別支援学校等への点字絵本やしかけ絵本の貸出、ブックトークの実践を紹介していただいた。このうち、パッケージ貸出では、利用実績が年々増加しており、テーマやジャンルを広げたり複本で配架したりするなど学校の要望に応える工夫をしている。

「2. 学習活動支援」としては、授業用図書貸出と公共図書館利用学習についての紹介があった。公共図書館利用学習では、調べ学習補助や情報活用についての説明を行っており、「学校に戻ってからの学習にも役立つ」と好評を得ているとのことである。

「3. 新たな学校支援」は、「せんだい電子図書館」の紹介が主であった。これはGIGAスクール構想の実現に向けた、1人1台端末や高速大容量通信ネットワークの一体的な整備に伴って開始したサービスである。特別利用IDを仙台市立学校に付与することにより、4519点のコンテンツや郷土資料・行政資料にもアクセスすることができるようになり、利便性が向上した。授業で資料をモニター等に投影する際の申請方法を整備しているこ



とも大きな支援につながっているということである。

実際に電子図書を体験する時間もあり、参加型の楽しい基調講演となった。

事例報告

主体的な学びを支える学校図書館を目指して
浦嶋 律子（大船渡市立大船渡北小学校教諭）

続いて行われた事例報告の1本目は、小学校での実践である。大船渡北小学校では、学年別読書指導目標を作成しており、系統的に活用されている。1年生国語で行った、調べ学習の成果をタブレット端末から全校配信しチャット機能によって感想を交流するという取り組みは、児童の意欲を高めることにつながったという報告であった。

他にも、東日本大震災について学ぶ防災・復興教育、地域ボランティアの協力のもと日本の絵本を翻訳して東南アジアに贈るという国際理解教育など、図書館の役割が大きな成果につながっている好例をお示しいただいた。

事例報告

豊かな心を育む読書活動の工夫

晴山 雅恵（花巻市立湯本中学校教諭）

午前の部最後は中学校での事例報告である。こちらでは、地域コーディネーターによる読み聞かせ活動が有効に機能している。生徒の読書の幅が広がり、本の紹介ポップづくりや読書感想文にもつながっているとのことであった。

一方で、生徒自身が地域の幼稚園・保育園へ読み聞かせを行うというボランティア活動も行っている。「子どもたちが喜んでくれてうれしい」「ただ読むだけではなく声を変えて工夫してみた」など、非常に印象深い生徒の感想も紹介され、充実した活動が展開されていることがうかがえた。

(てるい だいどう：盛岡市立向中野小学校)

●午後の部

第3分科会の午後の部では基調講演一つと二つの報告、質疑応答が行われた。「学校の魅力発信」をテーマに、各学校の図書館活動を通じた「活力のある学校づくり」の取り組みについて報告と情報共有が行われた。

基調講演

生徒の心のすみっこに入りこむ図書館になろう

湯川 康宏（埼玉県立飯能高等学校主任司書）

ユーモアあふれる語り口と、その風貌で和やかな雰囲気の中、講演が行われた。埼玉県立飯能高校の校舎の隅にあるため「すみっこ図書館」と呼ばれ、湯川先生が赴任された当時は生徒が全く図書館に来ないという現状。そこから湯川先生の「学校図書館大改革」が始まった。読書や本にこだわらず、むしろそれらが苦手な生徒にこそ図書館を利用してほしいと考えて、「どんな生徒にも必ず居場所が見つかる図書館」というコンセプトを掲げて次々と新しいアイデアを実現していった。開館時には「〇ン・キホーテ」の店内BGMを流す、館内を機能別に色分けしてさまざまな生徒の指向をすくい上げる、フィギュアやこたつやぬいぐるみやゲームができるパソコンを置く etc. etc. …。読書センターや学習センターとしての機能はしっかり保ちつつ、居場所としての機能を両立するという難しい課題に、従来の学校図書館の常識を覆す数多くの「仕掛け」で挑んだ湯川先生の「すみっこ図書館」は徐々に生徒たちに受け入れられ、中にはこの図書館を利用したいために飯能高校に入学したという生徒も出てくるほど、学校の活性化に大いに貢献している。この成功はさまざまな制約の中で最初から「できない」とあきらめるのではなく、常識にとらわれずに生徒目線、特に読書に向かわない生徒の目線に立って学校図書館を変えて行こうという、いわば「逆転の発想」から生まれたものである。学校規模の大小や図書館の予算の多寡に関わらず、アイデア次第で図

書館は活性化できるという力強いエールをいただいたように感じた。

司書業務は1人で担うものでなく、協力してくれる外部の方々や、図書室に通う生徒を巻き込んでこそという、持続的に図書館運営をしていく大切さをお話しいただき、講演終了後の限られた時間にも多くの先生方が質問や意見交換で先生の周囲を囲んだ。

事例報告

本校の図書館活動の取組と課題について

平野 聡子（岩手県立北上翔南高等学校教諭）

通常の業務と司書の仕事を兼務しながら、さまざまな取り組みを通して、図書室活用や読書活動を展開した実践について紹介された。担当職員が2名という人手不足の状況は、どの学校にも共通の悩ましい状況である。その中で、広く地域の方とつながりながら助言をいただいたり実際に図書館に来校いただいたりして、図書館活動や行事等の運営をしてきた。特に「象と花プロジェクト」への参加と成果についての発表では、生徒たちの前向きな取り組みへの姿勢についてお話があった。「生徒が本を通して地域とつながる」という、学校と地域の両面の活性化に関する事例の報告であった。

事例報告

地域の図書館と連携した本のリユースによる読書推進活動

中村 和宏（岩手県立水沢商業高等学校教諭）

地域の奥州市立水沢図書館や「奥州市協働まちづくり部」と連携し、さまざまな読書推進活動を行った事例報告であった。図書委員会の活動として家庭で不要となった絵本・児童書の寄付を呼びかけ、市内の放課後児童クラブや子ども教室に提供するという本のリユース活動を継続して実施しており、学校図書館が地域の読書推進に大いに寄与してきた。また、図書委員会顧問である中村先生が理科教諭であることを活かし、「かがくじっけんショー&かがくのほん」と題し、体験型の読書活動を実施し、地域の親子などとの交流を図った。

学校の特色にあった図書館運営や委員会活動を模索し、熱意を持って活動をしていくことが大切であるという中村先生の言葉は、学校図書館活性化のキーワードとして、3人の先生方の共通のキーワードであると感じた。

(おいかわ ひろずみ：盛岡大学附属高等学校)

子どもと本とのよい出会いを

安保和徳

現代の子どもたちは情報環境の変化により日々大量の情報にさらされ、また、戦争や気候変動といった世界規模の諸問題に取り囲まれて生きている。創造力を豊かにし、生きる力を育むうえで大きな力を持つ読書は、今日のこうした状況を乗り越える上で大きな助けとなるはずである。本分科会では、「子どもと本とのよい出会い」のために私たちに何ができるのかを、基調講演と事例報告を通じて考えた。参加者数は82名であった。

1. 基調講演 東京子ども図書館 張替恵子氏

公益財団法人東京子ども図書館は、四つの家庭文庫を統合し、1974年に設立された。財団設立を機に、児童サービスに加え、子どもの本と読書に関わる大人のための参考図書館・研修機関としての活動に力を注いだ。ここで育った人材は全国各地で後継者を育ててくれている。戦後刊行された次世代にも読んでほしい・図書館には必ず備えてほしい作品を厳選した「児童図書館基本蔵書目録」も、2022年全3巻を無事に刊行し終えた。

次世代を担う若者に果たす本の役割はますます大きくなっており、それを最大限生かすためには、専門的知識と技能を身につけた図書館員が、安定して働ける環境が必要である。前理事長の松岡享子氏は、生前「子どもの本の仕事は、将来の希望と一緒に仕事をするということ。自分も元気が出るし、意義もある。第一たのしい。幸せだと思って、続けてくださるようお願いします。」と話していた。

設立50周年を迎える今、当初の夢は未だ道半ばにある。この願いをつないでいけるよう、心ある方は一緒に歩んでいただきたい。

2. 事例報告 東京子ども図書館 護得久えみ子氏

東京子ども図書館の特徴として、職員が子どもと密に接する、選書を丁寧に行うという2点が挙げられる。来館する子どもに日常的に本を読むことで、子どもがどのように本を読むのかという物差しを持つことができる。そして、それが丁寧な



選書に生かされることになる。

子どもと本をつなぐ工夫として、ブックレットの配布、お話の時間、読書キャンペーンの企画、また、「児童図書館基本蔵書目録」シリーズの編集・刊行、復刊キャンペーン等を実施してきた。復刊キャンペーンでは投票形式で希望を募り、子どもや大人から寄せられた本の推薦理由も出版社に伝え、復刊を実現。図書館と出版社が連携した好例を示すことができた。

3. 事例報告 久慈市立図書館 金久由美子氏

図書館の基本コンセプトである「情報と人をつなげ、人と人をつなげ、人と地域をつなげる図書館」を実現するべくさまざまな事業を行っている。

2022(令和4)年度は「調べる学習コンクール」の参加者を増やそうと、市内の学童保育所と連携して「調べる学習講座」を開催。この中で、久慈市内の水族館(もぐらんぴあ)など社会教育施設にも協力を仰ぎ、「調べる学習 in もぐらんぴあ」というイベントを実施した。もぐらんぴあへ出向き体験学習を行うことで興味関心を喚起し、その仕上げとして、図書館職員のサポートのもと、各々のテーマに沿った調べ学習の成果をまとめ上げてもらった。調べる学習講座は今年度も開催。地域をつなげ新しい学びの場を創出する役割を今後も果たしていきたい。

(あんば かずのり:岩手県立図書館)

★第4分科会

児童サービス(2)★

読書が子どもに与える影響

安保和徳

新型コロナウイルス感染症の拡大により人との接触や会話の機会が大きく減少するなか、多様な考え方や生き方に触れられる読書が果たした役割は大きい。コロナ禍に一応の区切りがつき新たな環境への柔軟な対応が求められる今、本分科会ではその理念の下支えとなる「読書が子どもに与える影響」を学ぶことで、今後のサービス展開に資することを目指した。参加者数は69名であった。

1. 基調講演 東京大学教授 酒井邦嘉氏

読書は子どもの想像力を養い、自発的な思考を促し、脳を日々成長・変化させる。また、紙の本を用い手書きでノートをとることは、学習効果を高めてくれる。脳が持つ精妙な言語の生成能力は人間の創造力の源泉で、その能力は言葉の入力と適切な出力により養われる。子ども時代の読書経験は、まさにその核心に関わる。

これに対しインターネットやSNSは、過剰に利便的な使い方によって健全な言論空間を破壊し、思考力や創造力の低下と、短絡的思考の助長を招く。また、今年に入り急速に普及し始めた生成AIは、教育現場においては学びの意義をも揺るがす脅威となっており、リスクを無視した利用は思考力や創造力の著しい低下につながる。

技術を適切に用いるためには人間が持つ価値観や倫理観をよく理解する必要がある。読書や紙の本はその手助けとなる。このAI時代にこそ読書の必要性を真剣に訴えなければならない。

2. 事例報告 もじもじクラブ 阿部りか氏

もじもじクラブは2002(平成14)年に花巻市ブックスタート事業の開始に伴い結成された。現在、新型コロナの影響でこの事業でのボランティア活動は中断しているが、いつでも再開できるよう準備をしている。

図書館内でのおはなし会は、参加者の年齢層を四つに分け、それぞれ月1回ずつ開催している。



中でも0～2歳児向けの枠では、その場が親子の幸せな体験となるよう気持ちを込めて行っている。

発足10周年の年から自主事業「もじもじまつり」を継続開催し、今年度開催した第9回目も盛況裏に終えられた。未来を担う子どもたちの輝く笑顔を応援するため、これからも図書館とともに協力して活動を続けていきたい。

3. 事例報告 絵本専門士 藤村友樹子氏

読み聞かせは一期一会の場であり、子どもと大人に豊かな感情をもたらす。読み聞かせの場では子どもに「耳で聞く」「体で聞く」「心で聞く」といった様子が見られるが、これらは段階的に移行するものではなく行き来を繰り返し、子どもの心の揺らぎそのものを映していると言える。

小学生と関わる中で、家庭でも学校でも読書の時間・優先順位がともに低下してきている危機感を抱いている。読書環境の整った家庭とそうでない家庭の子どもとの差は顕著で、読書と子どもの間に立つ大人の必要性がよく分かる。

絵本は卒業するものではなく成長しても引き続き親しむものと再定義し、新しい読書文化の広がりを持たないか。大人と子どもが同じ絵本を挟み対話することで、子どもの心と共感力の成長が期待できる。児童サービス関係者には、必要な本が必要な方に届くよう情報発信をしていただきたい。

(あんば かずのり：岩手県立図書館)

日本の図書館情報学教育の現状：『日本の図書館情報学教育』調査から

大谷康晴

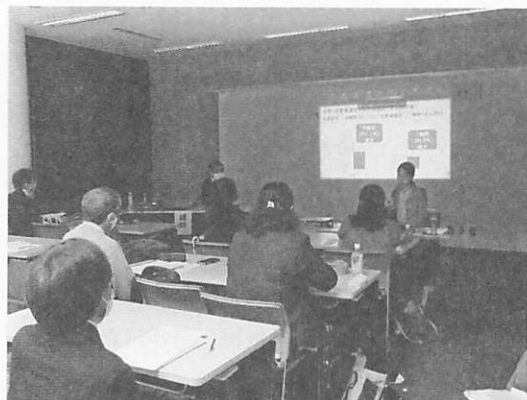
第5分科会（図書館情報学教育分科会）は、「日本の図書館情報学教育の現状：『日本の図書館情報学教育』調査から」と題して開催された。図書館情報学教育部会では、2004年度以来の日本の図書館情報学に関する総合的な調査（調査結果は『日本の図書館情報学教育2005』として刊行）を行っており、その中間報告となった。

まず、聖徳大学坂本俊氏による「『日本の図書館情報学教育』に関する調査の概要」と題する、調査全体の概要に関する報告が行われた。

この調査の目的は、①図書館情報学教育の実態を明らかにすること、②調査結果を公表することによって、認識を共有することである。そして、図書館情報学に関する教育プログラムを少なくとも一つは提供している大学を調査対象として、図書館情報学に関するすべての教育プログラムの提供の有無を確認する第1次調査を実施した。質問の対象となった教育プログラムは、1)いわゆる司書課程、2)司書講習、3)司書補講習、4)いわゆる司書教諭課程、5)司書教諭講習、6)学校司書モデルカリキュラム、7)学部専門科目、8)大学院、9)課外プログラムである（さらに、プログラムによっては通学課程と通信課程での状況も確認している）。

この調査は2023年3月に実施したが回答率は40%であり、最終的に6月まで督促を行い、約88%の大学からの回答を回収した。今後は2023年12月末までの期間でそれぞれの教育プログラムの詳細に関する第2次調査を行う予定である。

次に、八洲学園大学下山佳那子氏、桃山学院大学水沼友宏氏による「日本の高等教育機関における図書館員養成プログラムの実施状況について」が報告された。上記の1)から6)までのプログラムの実施状況を前回調査（2004年実施）と比較する形で報告するものである。特徴が見受けられたものとして、司書課程・司書教諭課程については短期大学（短大）での提供は大幅に減少しており、これは短大の数の減少を上回るペースである。大学では微増であるが、大学全体に占める比率は低下



している。

報告の最後は青山学院大学大谷康晴氏による「日本の高等教育機関における図書館情報学教育と課外プログラムについて」となった。これは、上記の調査の7)から9)について報告したものとなっている。

学部レベルでの専門教育については2004年調査とは異なる質問となっているが、実施状況としては大学が大幅増加、短大が微減となっていた。大学院で提供されている科目についても前回調査より提供している大学は増加していた。

これらの報告を終えた後、質疑応答に入った。司書・司書教諭における大学の微増については、短大から大学への改編が多くて、実際には新規参入増ではない状況にあるのではないかと指摘が寄せられた。さらに、卒業要件科目として履修できるかどうか、資格の課程登録について調査してもよいのではないかと指摘も寄せられた。また、地域的な偏在について調査を求める声が寄せられた。あるいは、資格取得者数の把握についても重要性が指摘された。いずれも貴重なご指摘あり、今後の第2次調査やさらなる調査で反映していきたい。

（おおたに やすはる：青山学院大学）

★第6分科会

著作権★

令和3年改正著作権法の施行後の動向

—— 図書館サービスに活かす上で考えたいこと ——

小池信彦

本分科会は「令和3年改正著作権法の施行後の動向～図書館サービスに活かす上で考えたいこと～」と題して行われた。令和3年改正著作権法については、国立国会図書館からの絶版等資料の個人送信は2022（令和4）年5月から開始され、図書館等からの図書館資料等の個人送信は2023（令和5）年6月から施行されている。図書館等からの個人送信については3年にわたり、図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会において協議が行われ、2023年5月にガイドライン等が設定された。2021（令和3）年改正著作権法の施行後の動向を報告し、質疑・意見交換を行った。

事例報告「令和3年改正著作権法の施行後の動向」 小池信彦（JLA 著作権委員会）

令和3年著作権法改正の経過、法公布後、施行までの準備として「図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会」が設置されたが、その検討体制と検討内容、施行前に制定した「図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン」（以下「ガイドライン」）を報告した。

「ガイドライン」について項目にそって詳しく説明した。項目は以下のとおりである。「本ガイドラインの位置づけ」「改正法の解釈と運用（制度趣旨、図書館資料、サービスの主体、制度目的による限定、対象となる著作物の範囲、全部利用が可能な著作物、利用対象外となる図書館資料、送信データの不正拡散の防止、特定図書館等の要件、受信者（利用者）における複製、著作権保護期間に関する補償金の要否判断、著作権保護期間に関する補償金の要否判断）」「ガイドライン」と一緒に合意した「図書館等公衆送信サービスに係る特定図書館等及び利用者に求められる要件等について」「図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会事務処理等スキーム分科会合意事項」を合わせて紹介した。



事例報告「国立国会図書館絶版等資料個人送信の状況」

松崎宏樹（国立国会図書館利用者サービス部サービス企画課課長補佐）

2022年5月から国立国会図書館デジタル化資料のうち絶版等資料を個人へ公衆送信するサービスを開始している。著作権法改正の背景と経過、送信対象資料、個人送信対象利用者、具体的なサービス内容、利用状況の報告があった。加えて、国立国会図書館未収かつ入手困難資料のデータ収集事業についても報告があった。

質疑・意見交換「質疑およびディスカッション」 井上奈智（上田女子短期大学）

事例報告二つを受けて、井上が進行役となり参加者との質疑を行った。主な質問は図書館等公衆送信サービスが導入された経緯について、公衆送信サービスを実施している図書館の有無、特定図書館等の要件である利用登録について、国立国会図書館絶版等資料個人送信について、国立国会図書館デジタルコレクションに関すること、複製サービスを行うにあたっての運用上の法解釈について、であった。

図書館等公衆送信サービスは改正法が施行されているが、サービス実施に必要な取り決めなど検討が続いている状況があり、動向や関係情報を日本図書館協会ホームページ、JLA メールマガジンを通じ発信していく予定である。

（こいけ のぶこ：JLA 著作権委員会委員長）

★第7分科会

図書館の自由★

戦争と図書館

小南理恵

本分科会では、基調報告「図書館の自由・この1年」と、日本における戦時中の図書館への思想統制と検閲に関する三つの講演をもとに、研究協議を行った。

基調報告「図書館の自由・この1年」

山口真也（沖縄国際大学、JLA 図書館の自由委員会委員長）

この1年の図書館の自由に関する出来事を振り返り、資料収集・提供の自由をめぐる事例として、旧統一教会・関連団体刊行物への批判、拉致問題に関する図書充実の協力等の要請などを報告した。また、利用者のプライバシー保護をめぐって、図書館等公衆送信サービスにかかわる利用者情報の扱いや、体温測定カメラへの顔画像保存問題などを取り上げた。

さらに、検閲・表現の自由をめぐる動きとして、香港の図書館における風刺作品の撤去や、国内の図書の販売中止・回収の状況を報告した。

講演「旧大橋図書館から引き継がれた発禁本」

新屋朝貴（（公財）三康文化研究所附属三康図書館）

三康文化研究所附属三康図書館は、明治期最大の出版社として知られる博文館が設立した大橋図書館の蔵書を引き継いでいる。講演では、旧大橋図書館から引き継がれた資料のうち、戦前から戦時中にかけて閲覧が禁止された「憲秩素本^{けんちつじんぼん}」について紹介された。

旧大橋図書館主事である竹内善作が、官憲の求めに応じず、書庫に立ち入らせることなく資料を守り抜いた、というエピソードや、「排除」「発売禁止」「禁閲覧」の印が残る資料やカード目録、検閲の痕跡が残る雑誌についても紹介された。さらに、これらの資料を活用した展示や、展示への反響、引き継がれた資料を利用に供する意義についても報告された。

講演「戦時下における県中央図書館と地方中央図書館～旧上伊那図書館の資料から～」

濱慎一（伊那市創造館、伊那市教育委員会）

旧上伊那図書館は、上伊那教育会が1930年に設



立した図書館である。現在、建物は市有形文化財に指定され、生涯学習・博物館類似施設「伊那市創造館」となっている。講演では、旧上伊那図書館に残された業務日誌や文書類から、戦時下の図書館の姿が報告された。特に、警察署長からの通知文や、差し押さえの「証明書」、図書原簿、業務日誌などの資料から、警察による差し押さえの実態や、図書館員が自発的に図書を提供していたことも示された。

さらに、1933年の改正図書館令を受けて、上伊那図書館の図書分類が県立長野図書館と統一されたことなど、中央図書館制度導入の様子についても報告された。

講演「戦時下の図書館での思想統制～検閲の事例と「図書館の自由」への道～」

荒木英夫（元・気仙沼市図書館長、元・図書館の自由に関する調査委員会委員）

荒木氏からは戦時下の読書、そして戦後の図書館界を知る当事者として、自身の体験を交えながら講演が行われた。講演では、自身が幼少期を過ごした大連での児童書『新満州文庫』の廃棄や教科書への統制、中学時代の読書環境について語られた。特に、気仙沼町図書館長を務めた菅野青顔^{かん の せいがん}が、警察の求めに応じず、図書台帳の記載を偽って、資料を床板の下に隠し守り抜いた、というエピソードが紹介された。さらに、在職中に経験した図書館の自由に関する事例などから、知る自由の重要性について語られた。

（こみなみ りえ：鶴見大学文学部）

★第8分科会

障害者サービス(1)★

SDGsと図書館、誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して

村林麻紀

障害者サービス分科会は、午前と午後に別のテーマを設け、それぞれ3本の発表と質疑が行われた。

基調講演「障害者サービスからインクルーシブなサービスへ SDGsが図書館界に求めること」

河村 宏 (NPO 法人支援技術開発機構)

国連は2015年、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択し、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を定めた。

SDGsの本文には、図書館という言葉が使われていない。その代わり、データや情報の重要性和ともに、ほとんどすべての目標について、公平かつ普遍的なアクセスがすべての人に保障されるべきとしている。

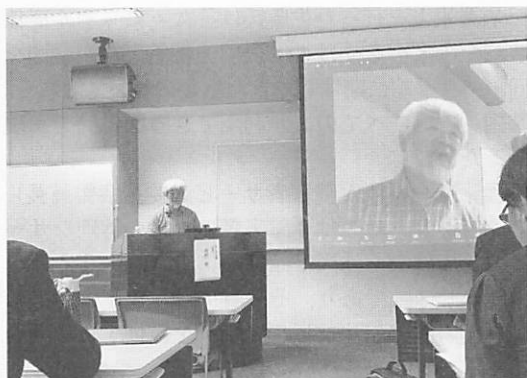
日本の図書館界も、1970年代から障害者サービス、つまり「図書館利用に障害のある人々へのサービス」に取り組んできた。その理念はSDGsの求めるものと共通している。

「誰一人取り残さない」つまり「インクルーシブな」サービスを目指し、日本はDAISY規格の電子図書を先導して開発した。そしてIFLAおよび国連を通じた国際的な連携で世界に普及してきた。その結果、WIPO (World Intellectual Property Organization) のABC (Accessible Book Consortium) を通じて67万タイトル以上のアクセシブルな資料が国境を越えて入手可能となっており、この数はさらに増える見込みである。

報告「SDGsと図書館：IFLA ロッテルダム大会から見えてきたこと」

三浦 太郎 (明治大学文学部)

2023年8月21～25日、オランダ・ロッテルダムで第88回国際図書館連盟 (IFLA) 年次大会が開催された。昨年に続く現地開催となり、一部セッションはオンラインでも公開された。参加者は約100の国と地域から3,000人を超え、210のセッションや71の企業展示、ポスター発表197件が行われ



た。

開会式でテオ・ケンベルマン組織委員長は、持続可能性を、今日の図書館界における最上位の課題として位置付けた。

多くの発表でSDGsへの言及が見られ、例えば、情報を自由に利用できる社会の実現に向けた取り組みや、その壁となる法制面や財政面の課題等が取り上げられた。

SDGsの実現可能性については困難も伝えられるが、誰一人として取り残さないという理念の実現に向け、不断の実践が求められる。私達が何ができるかを考える上で諸外国の取り組みにも目を配りたい。

報告「IFLA ライブラリー・マップ・オブ・ザ・ワールドの活用」

野村 美佐子 (日本 DAISY コンソーシアム)

SDGsを含めた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実施における貢献の一つとして、IFLAが公開している「ワールド・ライブラリー・マップ (LIBRARY MAP OF THE WORLD) (以下、「LMW」と省略) に、各国がSDGsに貢献する取り組みを提供している。

LMWは、世界、地域、国レベルで図書館について提唱していくために、世界中の図書館の数や状態に関する基本的な情報を収集し、提供するサイトである。今後それを活用し、SDGsにつながる日本の図書館からの情報発信を進めてほしい。

(むらばやし まき：八尾市立八尾図書館)

★第8分科会

障害者サービス(2)★

最新の ICT 技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す、障害者の読書環境

村林麻紀

基調報告を行った佐藤氏は、久々にリアル開催された今大会を受けて、全国図書館大会が全国を回ってリアルに開催してきた意義について触れた。基調報告「すべての人が利用できる図書館を実現するために」

佐藤 聖一 (JLA 障害者サービス委員会委員長)

障害者サービスは「障害者のための特別なサービス」ではなく「図書館利用に障害のある人々へのサービス」であり、その目的は「すべての人にすべての図書館サービス・資料を提供すること」にある。

これは簡単に言うと、「誰もが使える図書館にする」ことである。その方法として、(1)来館できない人のために郵送、宅配、施設入所者へのサービス等の資料提供方法の工夫、(2)録音図書等、資料をその人が利用できる形式に変換して提供する方法(障害者サービス用資料)がある。

障害者サービス用資料は、そのデジタル化が進み、障害者等に利用しやすくなるとともに、提供方法もインターネットによるデータ配信ができるようになった。これにより、以前より多くの対象者が利用できるようになっている。ところが、これらのことを図書館職員も利用者も知らないという大きな課題がある。

読書バリアフリー法では、誰もが読書・文字情報にアクセスできる社会を目指しており、それを実現するために二つの方法を示している。一つは、点字図書館や公共図書館等が製作する障害者サービス用資料の充実であり、もう一つは出版社等によるアクセシブルな書籍や電子書籍の刊行促進である。更には、ICT 技術を活用して、障害者自身が直接情報にアクセスできる環境を作ることが重要となっている。

発表「アクセシブルな電子図書館ガイドライン」

田幡 琢磨、植村 要(国立国会図書館)

国立国会図書館は、アクセシブルな電子図書館ガイドラインを2023年に公開した(国立国会図書館のYouTubeで「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」の内容と利用方法の紹介を公開してい



る)。

このガイドラインは、電子図書館を視覚障害者等が利用することを想定し、公立図書館等と電子図書館事業者に求められる取り組み、電子図書館のシステムが実現すべきアクセシビリティ要件を示したものである。すでに電子図書館を導入している場合は、アクセシビリティのチェックリストになる。

発表「障害者の読書・情報取得に役立つ先進機器」
松井 進(千葉県立西部図書館)

千葉県立西部図書館では活字による読書が困難な方の読書や情報取得のニーズに応えるため、さまざまな読書支援機器を導入し、図書館に所蔵する資料の提供や各種調査研究に応えられる環境整備を行っている。特に電子書籍はICT技術の進歩により、音声読み上げや拡大表示などアクセシビリティ対応機能が進化しており、従来の録音図書や大きな活字の図書と比較してさまざまなニーズに合わせたカスタマイズが可能になっている。

以下のような機器やサービスがある(発表では具体的な製品名を挙げて話された)。(1)拡大読書器、(2)点字情報端末、(3)スクリーンリーダー(画面読み上げソフト)・録音図書等にアクセスする便利ソフト、(4)据え置き型デジタイズ図書再生機器・携帯可能なデジタイズ図書再生機器、(5)スマートフォン・タブレット用アプリ、(6)アクセシビリティが確保された電子書籍および図書館で導入可能な電子書籍配信サービスについて、(7)AIやクラウドを活用した書籍読み上げカメラ付きグラスや文字認識サービスの最新テクノロジー。

(むらばやし まき：八尾市立八尾図書館)

★第9分科会

認定司書事業★

日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから

松本直樹

第9分科会では、認定司書事業のこれまでの成果と今後のあり方について議論した。これは、中長期的な認定司書制度のあり方を検討する認定司書制度検討委員会が設置されたことを踏まえたものである。

報告「認定司書は認定司書事業をどう捉えているか」(松本直樹・慶應義塾大学、内山喜寿・上越市教育委員会・日本図書館協会認定司書第1149号)は、認定司書事業に対する認定司書の認識を明らかにすることを目的に実施した認定司書10名に対する聞き取り調査の報告である。認定司書制度の今後の課題として、認知度の向上や能力の明確化などが示された。

報告「国内専門職における認定事業の取り組み：看護師を事例として」(青野正太・駿河台大学)では、制度の検討に資するため、看護師を事例とした認定要件と制度運営団体の取り組みの調査結果を報告した。認定司書と異なる点として(1)専門性に依拠して選択できる仕組み、(2)新規または更新の別により評価軸の異なる認定要件、(3)教育機関との連携によるカリキュラム編成を指摘した。

報告「海外図書館情報専門職における認定事業の取り組み」(酒井由紀子・慶應義塾大学非常勤講師)では、認定司書制度と比較し、2000年代を中心に創設された海外4種の認定制度の特徴として、「知識ベース等に基づく認定審査」「複数種類の認

定資格」「柔軟な学位の扱いと手厚い支援制度」の3点を抽出した。また、これらを整理し「一元化と多様化」という示唆を特定した。

報告「図書館員の人材育成：職員像の検討と研修の調査から」(青野正太・駿河台大学)は、図書館員の育成に関する2点の調査結果を報告した。

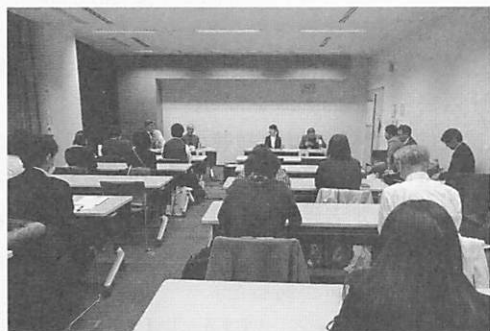
(1)各自治体で策定している図書館サービス計画における人材育成の記述を分析し、公共図書館において求められる職員像を検討した。(2)『図書館年鑑』に収録された20年間の研修会実施記録を調査し、研修の動向と課題を明らかにした。

ディスカッションでは、4名の登壇者を迎えて以上の報告および認定司書制度のこれまでの成果と課題について議論した。登壇者は、糸賀雅児(認定司書審査会会長・慶應義塾大学名誉教授)、岩持河奈子(岩手県立図書館指定管理者・日本図書館協会認定司書第1202号)、大谷康晴(認定司書事業委員会委員長、青山学院大学)、星野盾(日本図書館協会認定司書第2026号)である。

ここでは紙幅の関係から主な論点のみを示す。議論は、①認定する際の知識・スキルを明確化することの必要性和困難性、②教育公務員特例法との関係から図書館職員の研修が求められる背景と認定制度創設の歴史的経緯、③認定司書制度が司書のスキルや知識を外部的に見える化する際の触媒となることへの期待と必要性、④司書の置かれた職場環境およびライフイベントを踏まえた認定制度の必要性、⑤研修を受講した際の成果の表し方、⑥文化審議会答申における認定司書事業への関心等の多様な観点から行われた。

認定司書制度は、来年度で制度創設から15年目を迎える。今回の報告やディスカッションを踏まえて、認定司書事業の着実な継続とさらなる発展に向けた取り組みが求められることを、改めて確認した分科会であった。

(まつもと なおき：慶應義塾大学文学部)



★第10分科会

災害と図書館★

災害と図書館

—— 東日本大震災に学び今後の対策を考える ——

鈴木史穂

はじめに、JLA 図書館災害対策委員会委員長末次健太郎から、「東日本大震災に学び、今後の対策を考える」ことを共有し、各地での実践につなげていきたいと、分科会の趣旨が語られた。

基調講演「東日本大震災における図書館の被害と復旧概要」(川島宏 JLA 図書館災害対策委員会株式会社栗原研究室)

建築士として東日本大震災から被災地を見てきた経験から何が起こり、どう復興していったかを解説した。地震による建物被害、津波に遭った図書室、原子力災害により長期間放置せざるをえなくなった図書館など、多数の写真で震災を振り返り、リスクは館ごとにちがうため、館ごとにプランを考えることが重要だと示した。

また、2018年の北海道胆振東部地震による不同沈下、西日本豪雨による水没などについても言及し、「地球温暖化により“災害は起こる”と警戒心を高める必要がある」と警鐘を鳴らした。

最後に震災後の復旧、新築された図書館を紹介し、「大切なものは何か」と問い、「自分の命を守る。それを第一にしてほしい」と結んだ。

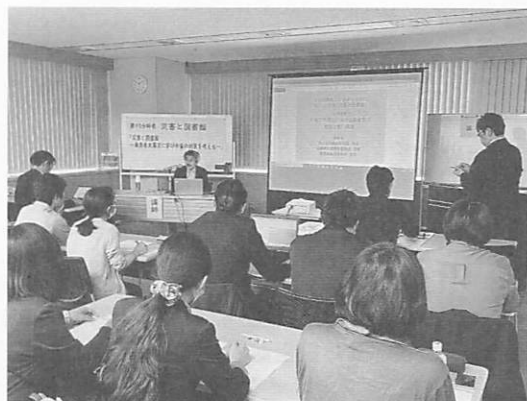
報告1「公立図書館施設が被災した際の災害復旧制度について」(松本匡裕 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部)

近年、大規模な自然災害が毎年のように発生していることから、「公立社会教育施設災害復旧費補助制度」の概要と、被災した図書館が復旧経費の補助を受けるための注意点について説明があった。被害の状況をいかに写真で残すかが重要であることなど、具体的なポイントについてアドバイスがあった。

報告2「災害から資料を守り、救う」

(眞野節雄 JLA 資料保存委員会委員長 東京都立中央図書館)

災害から資料を守るためには、「予防」や「準備」、減災への体制を作っておく事前対策が最も大



切である。陸前高田市立図書館では東日本大震災の津波で人命が失われ、多くの資料が流されたが、濡れ残った資料が集められていた。その中から53点の貴重資料を救出し、修復作業をした経験を伝え、水濡れ資料には「捨てる」、「取り替える(再入手)」という選択、「洗浄する」、「冷凍する」救済方法があるが、対応できないときは他機関に「助けを求める」ことを提示した。震災後のエピソードなどから、「大災害が起きたとき、資料は残そうと思わなければ残らない。記録を伝えていく、残そうとしていくこと」こそ重要であると語った。ワークショップ「水濡れ被災資料の処置」

(佐々木紫乃 JLA 資料保存委員会 東京都立中央図書館、神原陽子 JLA 資料保存委員会 埼玉県立久喜図書館)

水に濡れた資料はカビが発生する危険性があること、塗工紙が濡れて乾くと固着してはがれにくいことを学び、水に濡れた紙資料を乾燥させ、救済する緊急対応の実演を行った。

質疑応答では、復旧経費の補助を受ける際の「原形復旧」の解釈・方法についてなど具体的な質問もあり、参加者から「(東日本大震災の被災地)岩手で災害と図書館の講義を受けることができてよかった」という声があった。

(すずき しほ: 福島県立図書館)

地方における書店の役割と図書館

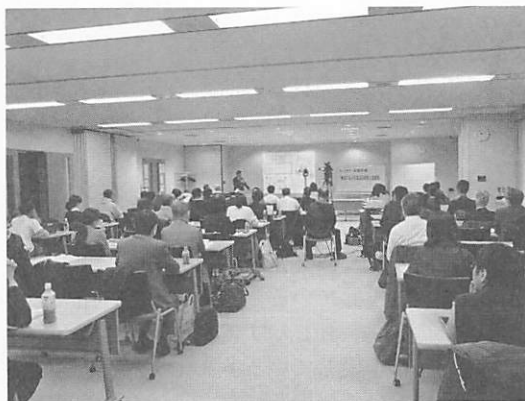
大場博幸

JLA 出版流通委員会の企画となる第11分科会のテーマは「地方における書店の役割と図書館」である。司会は筆者が務めた。

冒頭で司会が企画の主旨を説明した。2022年末に「書店のない市町村」が全国の1/4に達するという報道があった。これを受けて地方の公立図書館の役割を考えようというのが当初の主旨であった。しかし、その後に事態の進展があった。春には、自民党所属の国会議員による「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」(略称・書店議連)が、政府に対して「第一次提言」を提出した。秋には、文部科学省の協力のもと「書店・図書館等関係者における対話の場」が開催され、2024年2月現在でも会議が継続している。地方における図書館の役割について考えるというだけでなく、図書館によるより具体的な小売書店支援の案が求められるまでに議論が変化してきている。

基調報告者は出版文化産業振興財団(JPIC)専務理事の松木修一氏である。最初にJPICの目的と事業内容について説明し、続いて五つの具体的な図書館による小売書店支援案を示した。第一は「図書館本大賞」という企画で、司書がおすすめの本を選ぶというものである。本屋大賞のようになることが期待される。第二は、図書館で予約された書籍を地域の書店で受け取ることができる仕組みである。来店による購入が期待される。第三は、近隣の書店の在庫状況がわかるデータベースである。図書館のOPACとリンクさせることで「貸出中のため購入したい」というニーズに応えることができる。第四は「本棚大賞」という企画で、図書館または書店で独自の本棚を形成し、選書や見せ方のセンスを競うというものである。第五は、韓国における国による支援の事例の紹介であった。

続く報告者は八戸ブックセンター所長の音喜多信嗣氏である。八戸ブックセンターは、「本のまち八戸」というスローガンのもと、本を読む人を増やす、本を書く人を増やす、本でまちを盛り上げるという三つの目的をもって、市によって設立された。街の小売書店では扱わないような書籍との



出合いの機会を創出し、かつ「私有」する体験を促している。また、読書会、講演会、執筆・出版ワークショップや展示といったさまざまなイベントも開催している。さらに公立図書館や小中学校といった連携事業も行っているとのことである。

最後の報告者は、書店と図書館の両方で経営的な立場を経験したことのある菊池壮一氏である。最初に書店議連の提言の中身について検証し、関係者間での調整ではなく、多くは立法によって対応すべき問題であることを指摘した。しかし、書店、図書館のそれぞれにも課題があるとする。一部の書店は経営者の高齢化などを理由として、業務の改善に意欲的ではない。一方で、図書館員は収益を考えなくてよいから、ルーティン化された仕事をこなすだけで満足してしまう傾向にある。図書館は、出版関係者と対話し、図書館の役割や定義を再考し、関係する議論に積極的に関わってゆくことが重要であるとする。

質疑応答では、図書館による小売書店への被害を前提として議論が進むことへの疑義が会場からいくつか出された。

この分科会によってなにか結論が得られたというわけではない。図書館界、出版界それぞれの主張をぶつけあったというのが現時点での評価だろう。それでも、こうした議論の場が将来の協力関係への端緒となるのを期待したい。

(おおば ひろゆき：日本大学文理学部)

暮らしの中の情報と多文化サービス

—— 岩手県的事例を通して ——

村上健治

多文化サービス委員会の活動報告、基調講演、報告3件の後、パネルディスカッションが行われた。

長崎純心大学の浜口美由紀氏から「多文化サービス委員会この一年」と題して、多文化サービスを進めていくために必要な情報を集めたリンク集をアップデートしていること、全国図書館大会での分科会の実施、IFLA ロッテルダム会議への参加、2025年に予定している多文化サービス実態調査の準備について報告された。

多文化サービス委員会の平田泰子氏から「暮らしの情報をすべての住民に」と題して基調講演があった。2015年の多文化サービス実態調査では、多くの図書館が自治体との連携を十分に行えていない状況だったことを踏まえ、図書館だけで多文化サービスを進めていくことは難しいので、自治体の他部署と連携して住民のニーズを把握していくこと、図書館は誰にでも開かれた施設であり、誰でも利用できることで、住民にさまざまな情報を提供する役割を担うことができること、多言語の資料を収集し提供することだけが図書館の多文化サービスなのではなく、住民に必要な情報が理解できる言語で必要ときに入手できる環境を整えることも多文化サービスである、とまとめられた。

常葉大学的那珂元氏から「静岡県での多文化共生推進部署・団体・組織と公共図書館との連携に

ついて」と題して、常葉大学の学生が主体となっていて行われている焼津市立焼津図書館、焼津市市民協働課、静岡市立御幸町図書館、静岡市や静岡県国際交流課との連携活動、多文化共生活動が報告された。今後の課題として部署間で連携するだけではなく、高い専門性と技能、モチベーションを持った司書の育成の重要性が示された。

遠野市教育文化振興財団の福寄順子氏から「外国人市民と地域をつなぐゲートウェイとして」と題して報告があった。技能実習、特定技能等の在留資格で働く方々に地域の文化を体験してもらい、彼らと住民とが顔の見える隣人として知り合う機会を提供するために行っているさまざまな体験イベントや日本語ボランティアグループとの協働、地域情報の提供や生活講座などの活動が紹介された。

一関市立一関図書館の佐藤俊憲氏から「一関市の外国人市民等への支援について」と題して報告があった。一関市では2016（平成28）年度より多文化共生事業を実施しているが、多文化共生については市役所のほとんどの部署が関係してくるので、全体の連絡調整等のために外国人市民等支援本部が2023（令和5）年度に設置されている。図書館で行っている取り組みとして、日本文化や日本語を学ぶ資料の収集、多言語利用案内や展示、多言語翻訳機の設置や交流イベントの開催などが紹介された。

その後、東京都豊島区立図書館の阿部治子氏の司会でパネルディスカッションが行われた。図書館員自身が図書館の持つ力に気づいていないし自治体もその力に気づいていないのではないかという意見、他部署との連携はさまざまな気付きから生まれるので、図書館の内部だけで考えるのではなくさまざまな切り口から考えていくことが必要との指摘、当事者の声を知ることが仕事のモチベーションにつながるなど、活発に議論がなされた。

（むらかみ けんじ：広島大学図書館）



★第13分科会

非正規雇用職員★

指定管理者・委託で働く非正規雇用職員

利光朝子

指定管理者や委託で働く非正規雇用職員が年々増加しており、2022年の分科会で取り上げた会計年度任用職員より低い待遇、不安定な状況に置かれているケースも多い。JLAでも2023年5月に「図書館非正規職員の処遇についてお願い」を公表した。本分科会ではこの問題について、多様な角度から報告を受け検討した。

基調講演：非正規図書館職員の待遇改善問題

日向良和氏（都留文科大学共通教育センター教授）

官民を問わず非正規職員が生活できず人生設計ができない状況が、館種を問わず続いている。その原因として定数管理があり、異動前提の総合職を優先し専門職が削減されてきた。総務省も問題は把握しているが、自治体の裁量に任せている。文部科学省が図書館の役割をアピールし国民運動にしていく必要がある。

これからの課題として、専門職というカテゴリーをどう確立していくか、女性労働が前提となっているジェンダーギャップ、公契約条例などがあり、当事者が疲弊していること、ストライキ権が確立されていないことも大きな問題である。

報告1：指定管理者・委託で働く非正規職員

小形亮氏（JLA 非正規雇用職員に関する委員会）

指定管理者・委託で働く職員は、2022年の調査では正規専任職員を大幅に上回り全図書館職員数の36%を占める。しかし全国一律に増加はしておらず、全都道府県の非常勤率は一律20%を超えているのに対し、指定管理者職員の割合は0%から50%超と偏りが大きい。2018年の神奈川県を対象とした実態調査では、非正規雇用職員の勤務年数が長くなるほど不満度が上がり、職務内容に賃金が見合っていないことがうかがえる。

報告2：NPOによる公共図書館の指定管理者制度とは 下吹越かおる氏（NPO 法人本と人をつなぐ「そらまめの会」）

図書館の状況を見かねた当時の正規司書から依頼されボランティアグループをつくり、2009年に市立図書館運営を受託、2021年度ライブラリーオブザイヤーを受賞するなど活動を評価されてきた



が、受託費では運営が困難で、2023年3月NHKの番組で図書館職員の給与の低さが取り上げられた。

次期は受託しないことも視野に入れ市と交渉しているが、「他者が受託しても引き継ぎ書で可能」などと、来年も非公募としない姿勢のままである。図書館は100年後に何を残すのかに責任を持つ。それを民間が決めているのか。そんな中、市民と理解ある議員で「指宿の図書館を考える会」が結成された。市は指定管理者を理解し、課題解決へ奔走して欲しい。

報告3：非正規雇用（民間）のための法令・政策
松井祐次郎氏（JLA非正規雇用職員に関する委員会）

民間労働者を守る法政策として最低賃金制度があり、引き上げ額は増加傾向にある。特定最低賃金という産業別最低賃金制度に図書館司書に相応しい水準を定めることが望まれる。

国や地方公共団体が民間と契約する場合に賃金などの条件を契約条項に書き込む「公契約条例」で職種別賃金を定めることもでき、野田市では図書館業務従事者の最低賃金を1,211円としている。

雇用に関する法律としては、契約期間途中の解雇や雇止めを原則禁止する「労働契約法」がある。働き方改革にともなって改正された「パートタイム・有期雇用労働法」では、職務内容・異動の有無で正社員との間に差をつけて良いとされている。
ディスカッション

会場から質問用紙を事前に受けて、報告者でディスカッションを行った。司書になりたい人と働く場のバランスの悪さ、指定管理者導入の地域差、指宿市の「考える会」の活動、野田市に公契約条例ができた理由、など質問は多岐にわたった。

最後に、図書館を必要とし図書館について考える市民の力の重要性が報告者から述べられた。

（としみつ あさこ：成田市立成田小学校図書館）

★第14分科会

市民と図書館★

住民が取り組む図書館職員問題

尾形陽子

図書館友の会全国連絡会（図友連）が主催した第14分科会は、18名の参加申込者の他、スタッフ等総勢38名が、市民の図書館を実現させる立場から、非正規図書館職員の問題を論議した。

第1部【基調講演】公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）共同代表 渡辺百合子氏が「76%が非正規で、図書館は持続可能か？」をテーマに講演を行った。

1) 図書館で働く非正規職員の調査から

3本の調査①自治労連「誇りと怒りの2022アンケート」②滝本アサさんのアンケート③2021～2023公務非正規女性全国ネットワーク調査から、図書館非正規職員の待遇を分析し、まとめた結果を報告した。

2) 図書館は、図書館司書は持続可能なのか

「専門性」や「やりがい搾取」の当事者たちがどのように考えているのか、上記調査などから探った。

3) まとめ

「扶養される前提」で時間数や給与、雇用年限が決められ、専門性を発揮しにくい雇用形態で働いている非正規職員で何とか維持されている現状を変えるために住民の立場でできることは何なのか。地元の司書とつながり、労働条件を調査し、議員に働きかける等、図友連が培ってきた活動が力になる。

第2部【パネルディスカッション】基調講演の渡辺氏を含む4名がパネラーとして意見を述べ、意見交換し、会場からの発言も加えて論議を深め

た。渡辺氏は、講演の補足として、埼玉県内18自治体で3年公募選考の情報公開請求した結果を示した。

【パネラー兼司会】高梨富佐氏（子ども読書コミュニティプロジェクトみやぎ）

正規の司書として非正規司書と共に働いた経験から、低賃金と雇用の継続的保証がないため専門力が低下し、そのことが、市民が司書の専門性を理解しにくくしていると感じる。また、大学で司書養成に当たった立場からは司書課程を履修する学生の大幅な減少が、今後図書館に与える影響は大きいことを語った。

【パネラー】匿名（非正規職員）

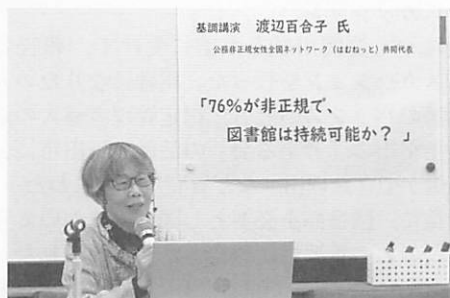
埼玉県狭山市立中央図書館では、2022年度末会計年度任用職員の大量雇い止めが行われた。37名全員が公募対象となり、実績・人事評価が全く考慮されず、1次試験の書類審査を民間企業に丸投げし、フルタイム司書3人を含め日中勤務32名中3分の1強が書類審査で雇い止めとなった。22年間貢献してきた職場を追われ、生活権を奪われた公募の実態を報告するとともに、継続中の復職運動の支援を訴えた。

【パネラー】佐久間美紀子氏（静岡図書館友の会）

1970年代から50年、静岡市の図書館に関わる市民活動グループが要望してきたことのほとんどが、司書を専門職として配置することを除き、実現したのは、人口ボーナスと言われる人口急増期に上手くはまったからである。が、今後は人口が減り、予算も減る。図書館の削減さえ話題に上る。その時図書館の使命を維持するために必要なのは司書の力であり今、緊急に取り組まなければならないのは、70%を超す非正規職員の問題である。

まとめ パネラーの2名から、図友連が今後取り組む「非正規職員調査」に期待する意見が出された。図書館利用者の立場で、職員の身近にいる図友連会員が、声を上げられない職員に代わり声を上げることが、今求められている。

（おがた ようこ：図書館友の会全国連絡会）



全国図書館大会に参加して

夜空で輝く星をつなぐように

堀内悠加

今回の全国図書館大会は、人と情報、図書館と図書館、そして人と図書館のつながりの重要性を改めて感じる機会となりました。

私は「“つながる図書館”～幸せと希望を実現する公共図書館の試み～」をテーマに掲げた第1分科会に参加しました。鳥取県立図書館の小林隆志館長の基調講演からは、図書館のネットワーク連携の重要性について学びました。南部町立図書館の角田有希子館長の事例報告からは、市町村立図書館が自立性を保持しつつ、県立図書館の支援を活用して、よりよい図書館サービスを実現させている取り組みを学びました。洋野

町立榊市図書館の平留美子館長補佐の事例報告では、東日本大震災を機に整備された「岩手県地区別図書館相互応援連絡体制」について説明がありました。有事の際の迅速な支援体制の構築と資料の散逸防止策については、どの図書館にも当てはまる課題であり、大変参考になりました。豊橋市まちなか図書館の種田滯館長の事例報告では、ターゲット層を明確にした上で、本ではなく人を主役にした工夫ある図書館づくりが紹介され、とても刺激を受けました。

4年ぶりの対面形式での開催となり、会場では図書館に関わるたくさんの方々にお会いすることができ

ました。短い時間ではありましたが、参加者との交流からも、工夫ある他館の取り組みを聞くことができました。コロナの影響により、オンライン参加形式が増えていますが、リアルだからこそ直接交流できる良さを改めて感じました。

利用者に資料や情報をつなぐための方法は、図書館の数だけさまざまです。それぞれの図書館は遠く離れていても、こうした場できつながら、学びあうことで新しい図書館サービスが生まれるかもしれません。人々が夜空の星をつなぎ航海の道標としたように、今回の学びが図書館の未来の道標となることを期待します。かつて宮沢賢治が見上げた岩手の冬の夜空に思いをはせながら、今回学んだことを今後の図書館サービスに活かしたいです。

(ほりうち ゆか：愛媛県立図書館)

全国図書館大会潜入記

小田那津子

全国図書館大会が岩手県で開催されると聞いたのは2年以上前のことだった。そのときから、当日は手伝いとして参加したいと思っていた。主催側として関わることができるのは自県で開催したときだけだ。結果的に2日目の会場運営係として参加した。

午前中は好きな分科会を見に行き、良いとのこと。会場であるアイーナの回廊を回って様子を伺う。図書館のことならばなんだって興味があるつもりだ。学校図書館、児童サービス、関わる人たちの顔が浮かぶ。図書館情報学教育、障害者サービス、学生時代、夏休みに司書講習に通っ

た大学が講習を開催しなくなったことや、利用の少ないDAISYのことが頭をよぎる。どこに行くのがいいだろうか。

結局第1分科会「つながる図書館」の講演会へ足を運んだ。やっぱり公共図書館関連のところへ足が向いてしまう。市立図書館で働く身として、県立図書館との関わりの中で思うことは正直たくさんある。けれど、小林隆志氏による基調講演を聴きながら、ここまでのことを県立図書館がしてくれる場合、市立図書館としては何ができようかと、初めての視点で未来を考えていた。連携という言葉の意味について、きちんと考

えることができたからだろう。

午後は第13分科会の受付として働いた。非正規雇用職員の分科会だ。参加者の多い分科会で、発表者はもちろん、参加者からの質問にも熱が入って見えた。時間内に会場を閉めるように通達されていたため、皆様を急かさねばならないことが心苦しかった。廊下のそこそこで話に花が咲いている。いつだって分科会では話し足りないものではあるけれど、ゆっくり感想を言い合える場があれば、と思いながら会場の扉を閉めた。

冬の岩手は17時を過ぎれば外は真っ暗だ。結局一日中降った雨を見ながら、アイーナとマリオスに全国の図書館関係者が集まったという事実を改めて思う。

この光景を岩手でまた見たい、と思った。

(おだ なつこ：一関市立東山図書館)

岩手へ、全国図書館大会参加記

宇賀田織部

4年ぶりの現地開催となった岩手大会にて、私は第2分科会「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方」に参加しました。専門図書館勤務でありながら「大学図書館」を選んだのは、苦手意識のあるオープンアクセスや研究データ管理について知見を広げるためです。あわせて会場に集う方々との交流にも期待していました。

基調講演では、まず大学図書館とオープンサイエンスをめぐる政策の変遷をたどり、続けてこの先の大学図書館の役割についてコンテンツ、空間、人材、連携と四つの視点で示されました。最近のオープンサイエンスの流れは、コロナ禍により加速こそしたものの長い審議の元で進んだことを知り、図書館周辺の施策を読むことの重要性に改めて気がしま

した。その後の講演や報告も基調講演で示された4点を軸に展開され、実際の取り組みを伺うことができました。資料種別や場が変化するなかでも情報提供を絶やさぬよう、館種を超えて学べることは多くあります。休憩時間に周囲の大学図書館員の方と意見を交わされたのも有意義な時間でした。

会場にて岩手県内の図書館紹介パネル展示が行われていましたが、大会の前後や合間でそのいくつかを訪れることもできました。

一関市立一関図書館では岩手大会記念「わたしと図書館」と題した企画が開催中で、県内全域で大会を盛り上げているような心強さを感じま

した。紫波町図書館ではカウンターに「本日のおすすめ」として岩手の観光ガイドブックを並べ訪問者を歓迎していました。数日間の滞在中、1回の見学では足りず再訪してしまうほど、見どころと魅力のある図書館でした。岩手県立図書館ではオープンしたばかりの「I-ルーム（震災・防災等の学び合いスペース）」を見学しました。今回訪れたいずれの図書館でも震災コーナーを広く深く設けていることは特に印象に残っています。

大会テーマのキーワードは「イーハトーブ」。理想を大きく掲げながら、それを実現させるために、過去を理解し、何事も自分ごととして捉え、協力し合うことの大切さを大会中にも図書館を巡りながらも感じたのでした。

（うがた おりべ：BICライブラリ）

＊令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト p.72-94

〔NDC：010.6 BSH：全国図書館大会〕



▲全体会の模様



▲参加受付の様子



▲懇親交流会での盛岡さんさ踊り



▲盛況の懇親交流会

会員募集のご案内ー会員の皆さまへ

日本図書館協会（JLA）では正会員，準会員，賛助会員を募集しております。

本法人は，全国の図書館の発展，文化の進展を図る事業を行うことにより，人々の読書や情報資料の利用を支援し，もって文化，学術，科学の振興に寄与することを目的としています（定款第3条）。

これからの日本の図書館界に清新な活力を注いでくださる皆さまのご参加を求めています。会員の皆さまにおいては積極的な勧誘をよろしくお願い申し上げます。

詳細については本法人ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/membership/tabid/270/Default.aspx>



日本図書館協会の活動を豊かなものにするために

ご寄附のお願い

本法人は，全国の図書館の進歩・発展を図るため，図書館運営の支援および政策提言，図書館職員の育成並びに研修・講習や図書館運営に関する調査・研究・資料収集，機関誌等の刊行など，図書館活動を通じたさまざまな事業を展開しています。

こうした公益目的にかなう事業のさらなる充実を図り，21世紀のよりよい文化的社会を築いていくため，広く市民や会員の皆さまからのご寄附を受け付けております。

なお，本法人への寄附金には特定公益法人としての税制上の優遇措置が適用され，所得税・法人税の控除が受けられます。

詳細については本法人ホームページ「ご寄附について」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/jla/tabid/457/Default.aspx>



charibon^{チャリボン} by V.B

あなたの本のご寄附が全国の図書館を支えます。



皆様の読み終えた本が図書館をサポートする活動に役立ちます。ご提供いただいた書籍、CD、DVD等を提携会社が買い取り、代金が日本図書館協会への寄附金となります。段ボールに詰めてご連絡ください。5冊（点）以上なら送料はかかりません。

古本を寄附
書籍類を梱包

集荷
配送会社

仕分け・査定
VALUE BOOKS

ファンドレイジング
日本図書館協会

5冊から送料無料

買取相当額の寄附

<https://www.charibon.jp/partner/jla/> TEL:0120-826-295（バリューブックス）

季刊『現代の図書館』刊行のご案内

＊現代の図書館編集委員会編 B5判・平均56ページ・定価：1,430円（税込）

第61巻（2023）

◆No.1 2023.3 特集：関東大震災100年－地震と図書館

- 帝国図書館と関東大震災……………長尾宗典
関東大震災と東京帝国大学附属図書館－不要論から見る附属図書館の大学内における位置付け
……………河村俊太郎
関東大震災による横浜市内の図書館の被災と復興－公共図書館を中心として……………新藤 透
2月6日のトルコ・シリア大震災－図書館への影響と復興プロセスにおける図書館の役割
……………エルトゥールル・シメン，訳：須永和之
投稿
京都集書院150年－別の見かたで……………堀奈津子
我が国の公共図書館における障害者への健康医療情報提供サービスの展望
……………三輪眞木子，田村俊作，野口武悟，八巻知香子

◆No.2 2023.6 特集：著作権の現在

- 公共図書館における著作権法改正への対応について－福島県における事例を参考に……………二瓶 優
学校図書館における著作権……………有山裕美子
SARTRAS設立の背景と授業目的公衆送信補償金制度の現状，今後の課題……………池村 聡
図書館によるデジタル貸出に関するEU・米国の裁判例－VOB事件CJEU判決およびIA事件S.D.N.Y.
判決の紹介……………鈴木康平
AIと著作権－AI生成表現の著作物性……………奥邨弘司
IFLA図書館情報学（LIS）専門職教育プログラムのためのガイドライン
クララ M. チュー，ジャヤ・ラジュ，クリス・カニンガム，ジ・ジュミン，ヴァージニア・オルティ
ス・レピソ・ヒメネス，アイーダ・スラビック，アナ・マリア・タラベラ＝イバラ，ソハイミ・ザ
カリヤ，訳：日本図書館協会国際交流事業委員会

◆No.3 2023.9 特集：読書論を読む ※3月刊行

- 小説を読むヒント……………廣野由美子
ネガティブ・リテラシーの効用……………佐藤卓己
「働いていると本が読めない」社会を変えるために－映画『花束みたいな恋をした』から読み解く現代
の労働と読書……………三宅香帆
子どもと子どもの読書の今とこれからを考える……………汐崎順子
読書の世界におけるウォーキングとスポーツカー……………郝 明義，訳：須永和之
図書館における指定管理者制度の導入等の調査について2022（報告）
……………日本図書館協会図書館政策企画委員会

小規模 図書館 奮戦記

その308

独立行政法人
国際協力機構図書館
(JICA 図書館)

国際協力の専門図書館 「夢物語」への挑戦

本村 洋

国際協力機構（以下 JICA）は、開発途上地域等の経済および社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的とした独立行政法人で、日本の政府開発援助（ODA）を担う実施機関として、対象地域や国、援助課題などに関する調査や研究、ODA 事業の計画策定、国際協力の現場で活動する人材の確保や派遣、事業管理、事業評価などの役割を担っています。

JICA 図書館は1977年に開設され、1988年からは現在の所在地、東京都新宿区の市ヶ谷に移転し、広く国際協力を携わる方々への情報提供を通じて、国際協力の促進に資することを目的として運営を続けています。

主な利用者は、国内外で勤務する JICA のスタッフ、海外派遣専門家、ボランティア、コンサルタント、NGO、そして大学の研究者や学生等幅広い立場で国際協力に係わる方々です。

閲覧室は開架式で、図書館の分野分類コード、地域コードも独自の体系を採用しています。

所蔵資料は約37万点、JICA 刊行物、テキスト、調査団収集資料、国際協力／開発援助に関連した一般図書、逐次刊行物、地図、映像資料、ボランティア報告書等が登録されています。

中でも個々の事業／セクターごとに随時作成される JICA 報告書は、対象国の社会経済状況、セクターごとの詳細情報を収録した貴重な資料として多くの方々にご利用いただいています。

そして、これらの JICA 報告書のほとんどは、インターネットを通じて、いつでも、どこでも、全文入手できる環境を整備しています。

本稿では、この報告書の電子化の取り組みについて、記載します。

当館の JICA 報告書電子化への取り組みは速く1997年にさかのぼります。日本で、ようやくインターネットの活用が定着し始めたころの話です。

当時も、JICA は、職員をはじめ、さまざまな分野の専門家やボランティア、調査団などの関係者を常時数千人規模で世界中に派遣していました。そのため、国内で国際協力を携わる方々のみならず、海外へ派遣された関係者を支援することも、当館の重要な役割のひとつで、要望があれば、JICA 報告書を国際郵便で送付していました。

さらに JICA がホームページを開設し、電子メールの運用を始めると、海外を拠点に活動する外部の研究者や留学生等からも、JICA 報告書に関する閲覧要望が増えてきました。

もはや所蔵する冊子版各1部をもって、将来的に JICA 関係者と外部からの閲覧要望の双方に対応することは、難しい状況となりつつありました。

このような国内外のニーズを受け、1997年から報告書の電子化に着手し、インターネットを通じた資料提供体制を整備していくこととしました。

電子化の対象は、JICA およびその前身機関が作成したすべての報告書



とし、所蔵済みのものはマイクロフィルムから、それ以降に作成される報告書は、印刷会社の DTP（デスクトップ パブリッシング）データから PDF 化していく基本方針を固めました。

先行事例もない中、PDF はデファクトスタンダードとして定着するか、インターネット速度は本当に速くなるのかと、不安を抱きながらも、文字化けしないフォントの選定、解像度とファイルサイズの最適バランス等、試行錯誤しながら決めていきました。

周囲からは「夢物語」と言われ続けましたが、1950年代に作成された報告書から、最新ののものまで、現在では65,000冊を超える報告書の全文をインターネットで読めるようになりました。そして掲載件数は毎年1,200冊のペースで、増加し続けています。

メインコンテンツの提供をインターネット経由に移行し、世の中に先駆けて DX を実現した結果、図書館の体制も大幅にスリムになりました。

最盛期には20名を超えていた陣容も、現在は司書4名を中心としたコンパクトな体制となりましたが、常に変化し続けるニーズに対応しながら、JICA 報告書、雑誌・図書の登録整備、日々国内外から依頼があるレファレンス業務に取り組んでいます。

昨今の AI の飛躍的進化に伴い、膨大な報告書の電子データを活用した次なる「夢物語」の姿も、おぼろげながら見え始めた気がしています。（もとむら ひろみ：独立行政法人

緒方貞子平和開発研究所）

[NDC10：018.319]

BSh：国際協力機構図書館]



霞が関だより

▶ 第243回

◎文部科学省

文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案

令和6年度文部科学省予算案の内容が公表されました。図書館・読書活動の推進関連予算案は以下のとおりです。

文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案一覧

(単位：千円)

事業概要	事項	令和6年度 予算額(案)	令和5年度 予算額	比較増 △減額
図書館における障害者利用の促進				
「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)の趣旨を踏まえ、先進的な読書バリアフリーに関する研修や関係者が連携した取組を支援するとともに、これらの取組の成果を全国に普及することにより、地域の実情を踏まえた効果的な読書バリアフリーの取組を推進する。	(1) 障害者サービス検討委員会の設置等 (2) 司書・職員等の支援人材、ピアサポート人材の育成 (3) 読書バリアフリーコンソーシアムの設置等	10,956	12,220	△1,264
読書活動総合推進事業				
子ども読書基本計画等に対応した読書活動や学習指導要領を踏まえた学校図書館の機能強化や活性化に向け、多様な関係者・機関等の連携を促進し、新たな読書活動のモデルなどを構築するための、読書活動推進モデル事業や、司書教諭講習、「子ども読書の日」の普及啓発、調査研究を実施する。	(1) 図書館・学校図書館等を活用した読書活動の推進 (2) 司書教諭講習の実施 (3) 「子ども読書の日」の理解促進 (4) 読書活動の推進等に関する調査研究	44,550	45,331	△781
社会教育デジタル活用等推進事業				
図書館等の社会教育施設の整備・運営に民間のノウハウや資金を活用し、施設の機能強化や効率的な運営を図るための官民連携手法(PPP/PFI)の導入支援等を行う。また、自治体向けの情報発信や研修会、専門家の派遣や民間事業者とのマッチング等を通して、具体的な案件形成に向けた伴走支援を実施する。	(1) 自治体相談窓口の設置 (2) 専門家派遣による案件形成支援 (3) 自治体職員向け研修会開催 (4) ウェブサイト等による情報発信 等	49,236	48,604	632

【参考】文部科学省ホームページ「令和6年度予算」

https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420672_00009.htm



【自治体向けの委託事業について】

・令和6年度の公募情報については、準備が整い次第、各自治体に周知予定です。

※令和4年度までの成果報告書は文部科学省ホームページ「図書館の振興」内の「読書活動の推進等に関する委託事業」に掲載しています。



[NDC10：011 BSH：図書館行政]

図書館における障害者利用の促進

令和6年度予算額（案） 11百万円
（前年度予算額 12百万円）



背景・課題

令和元年6月に成立した「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）は、障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的としている。また、読書バリアフリー法に基づき、令和2年7月に決定された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（読書バリアフリー基本計画）では、具体的な施策として、視覚障害者等の円滑な利用のための支援の充実、司書、司書教諭・学校司書等の資質向上、組織の枠を超えた取組や関係者間で連携した取組が行える体制構築などが具体的な施策としてあげられている。

このため、先導的な読書バリアフリーに関する研修や関係者が連携した取組を支援するとともに、これらの取組の成果を全国に普及することにより、地域の実情を踏まえた効果的な読書バリアフリーの取組を推進する。

事業内容（令和2年度～）

地域の実情を踏まえた効果的な読書バリアフリーの取組を推進するため、以下の取組を行う。

1. 障害者サービス検討委員会の設置等

4.1百万円（4.3百万円）

視覚障害者等の図書館利用に係るサービスの充実を図るため、有識者、自治体、公立図書館、学校図書館、大学図書館等の関係者で構成される委員会を設置し、振興方策の検討を行うとともに、実態調査や事例の収集等を行う。
＜直轄事業＞

2. 司書・職員等の支援人材、ピアサポート人材の育成 1.9百万円（1.9百万円）

司書、司書教諭・学校司書、職員、ボランティアが障害者サービスの内容を理解し、支援方法を習得するための研修や、読書支援機器（拡大読書器、DAISY再生機など）の使用法に習熟するための研修等を行う。また、障害当事者でピアサポートができる司書・職員の育成や環境の整備を行う。
＜2箇所（地方公共団体、民間団体）×0.9百万円＞

3. 読書バリアフリーコンソーシアムの設置等

5.0百万円（6.0百万円）

公立図書館、点字図書館、学校図書館、大学図書館等によるコンソーシアムを構築することにより、各館の資源の共有や人材の交流等を図るとともに、図書館を利用する視覚障害者等の増加を目的とした広報の強化を図る。また、これらの成果の普及及び読書バリアフリーの理解促進を目的としたフォーラムを開催する。＜2箇所（地方公共団体、民間団体）×2.5百万円＞

【対象者・事業種別等】

1. ……国（本省直轄事業）
2. 3. ……国 → 地方公共団体・民間団体（委託事業）



- 成果の普及： ①研修のプログラム・教材について文部科学省及び関係団体等のホームページで公開する。
②地域において構築されたコンソーシアムの成果をフォーラム等で発信する。

アウトプット（活動目標）

- ・読書バリアフリーに関するモデル研修の実施
- ・読書バリアフリーの周知に向けたフォーラム開催回数の増加

短期アウトカム（成果目標）

- ・読書バリアフリーに向けた支援方法等※に理解が深まった、研修参加者の増加
- ・読書バリアフリーに向けた支援方法等※に理解が深まった、フォーラム参加者の増加

※・連携による多様な資料の提供（サビエ図書館への登録、国立国会図書館によるデータ提供送信承認館への登録）
・公共図書館の所蔵資料の提供（視覚障害者用資料）

長期アウトカム（成果目標）

- ・サビエ図書館の登録館数の増加
- ・国立国会図書館によるデータ提供送信承認館数の増加
- ・全国の図書館が保有する視覚障害者用資料数の増加

（担当：総合教育政策局地域学習推進課）

読書活動総合推進事業

令和6年度予算額(案)
(前年度予算額)

45百万円
45百万円)



文部科学省

現状・課題

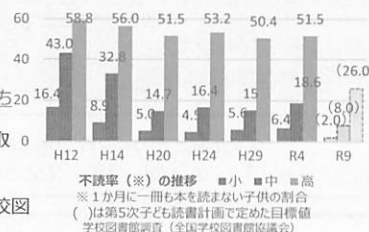
○国の計画への対応

・第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(R5.3.28閣議決定)

R5年度からの5か年計画を踏まえ、「不読率(※)の低減」(特に高校生の不読率は依然として高い)、「多様な子どもたちの読書機会の確保」、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」、「子どもの視点に立った読書活動の推進」のための方策、取組等の検討が必要。

・第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」(R4～R8)

R4年度からの第6次計画を踏まえた国の支援策が必要。学校図書館図書標準の達成、計画的な図書の更新等が課題。



○取り巻く情勢の変化—デジタル社会への対応—

- ・GIGAによる一人一台端末の整備を踏まえた学校図書館の利活用が課題。
- ・子供達の情報活用能力の育成とともに、多様な子供達の読書機会の確保等のために、電子書籍の利用、学校図書館や図書館のDXを進める必要がある。

○読書活動の総合的推進

- ・多様な子供の読書活動を推進するためには様々な機関や人々の連携・協力が不可欠である。図書館、学校、民間団体など関係機関が連携して行う子供の読書活動を推進する様々な取組を促す必要がある。

事業内容(令和4年度～)

「子どもの読書活動に関する基本的な計画」等への対応のため、図書館や学校図書館等を活用した読書活動を総合的に推進するための以下の取組を行う。

図書館・学校図書館等を活用した読書活動の推進 8百万円(7百万円)

子ども読書基本計画等に対応した読書活動や学習指導要領を踏まえた学校図書館の機能強化や活性化に向け、多様な関係者・機関等の連携を促進し、新たな読書活動のモデルなどを構築するため、読書活動推進モデル事業を実施する。

<委託事業:教育委員会等>

<取組内容>

1 子供の読書活動総合推進事業

・発達段階などに応じた読書活動推進事業

子ども読書基本計画を踏まえ、紙とデジタルの特性を活かした読書活動の先導的な取組や、発達段階や多様な子供のニーズ等に対応した効果的な取組を行う。
(委託先:2箇所(小・中・高等学校等、公立図書館)×0.8百万円)

2 学校図書館図書の整備促進事業

学習指導要領を踏まえた学校図書館を活用した授業を進めるため、新しいトピックに関連する書籍(SDGsなど)、新聞、優良図書及び授業に必要な基本図書の整備状況などを再点検し、計画的な図書の更新を定めた図書整備計画の策定や図書館資料を活用したモデル授業の実施など学校図書館図書の整備促進に向けた取組を行う。

(委託先:2箇所(小・中・高等学校、特別支援学校等)×1百万円)



司書教諭講習の実施 21百万円(21百万円)

学校図書館法に基づき、学校図書館の専門的職務を掌る「学校図書館司書教諭」の養成のため、全国の教育機関が講習を実施するための経費を措置する。<委託事業:47箇所(大学及び教育委員会)×0.5百万円>

「子ども読書の日」(4月23日)の理解推進 5百万円(5百万円)

国民の間に広く子供の読書活動について関心と理解を深めるために、「子ども読書の日」(4月23日)を広く周知するとともに、特色ある優れた取組を行っている図書館・学校・団体等を表彰する。<直轄事業>

読書活動の推進等に関する調査研究 11百万円(12百万円)

- ①子ども読書基本計画を踏まえ、子供の読書活動や図書館の実態把握など諸制度の見直しや施策立案に必要な基礎資料を得るための調査分析等を行う。
- ②図書館等におけるデジタル化やDXを推進するため、学校図書館や図書館のデジタル化に向けた課題やその対応方策を策定するための実証的な調査研究を行う。(課題解決型調査研究) <委託事業:各1団体×①4百万円、②6百万円>

アウトプット(活動目標)

- ・新たな読書、授業モデルの構築
- ・司書教諭講習を実施する機関の増加

短期アウトカム(成果目標)

- ・読書に興味が高まった子供の増加
- ・学校図書館の活用に理解が高まった教職員の増加
- ・司書教諭講習の修了者数の増加

長期アウトカム(成果目標)

- ・不読率の低減

(担当:総合教育政策局地域学習推進課)

社会教育デジタル活用等推進事業

令和6年度予算額（案）
（前年度予算額）

49百万円
49百万円



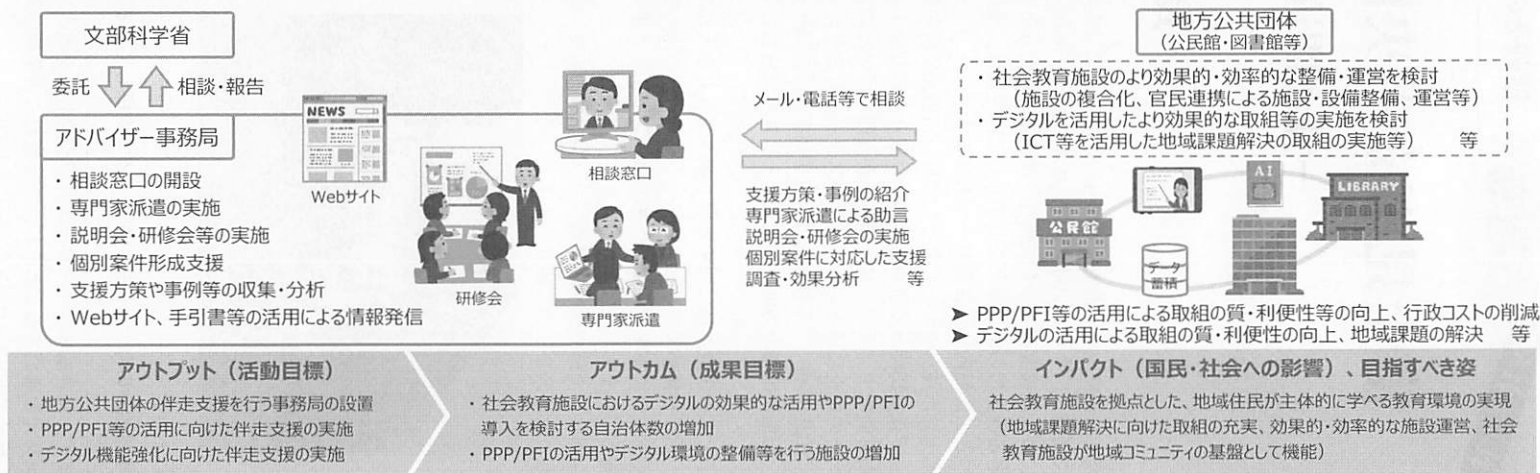
背景・課題

- ▶ 社会の急速なデジタル化の中で、社会教育分野におけるデジタル化の遅れが顕在化し、公民館等の**社会教育施設のデジタル機能を強化し**、「リアル」と「デジタル」を組み合わせた効果的な教育活動により、**地域の教育力の向上を図る必要がある**
- ▶ 公共施設のより効率的・効果的な整備・運営等に向けて、老朽化等が進む公民館等の**社会教育施設においても、民間の資金と創意工夫を活用するPPP/PFI等の活用を進めていく必要がある**
 - ・ PPP/PFIアクションプランにおける具体化目標を達成するため、**自治体への伴走支援を強化**
 - ・ 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（R5.6.16閣議決定）を踏まえ、**公民館等の身近な施設についてのモデル形成を支援**
- ▶ **地域コミュニティの基盤となる社会教育施設を活性化し**、デジタル田園都市国家構想を推進

事業内容（令和5年度より実施）

○ 社会教育施設のPPP/PFI等の活用・デジタル機能強化への支援（民間団体向け委託 × 1か所）

社会教育施設の整備や運営におけるPPP/PFI等の活用、デジタル環境の整備やその効果的な活用を促進するため、全国をカバーする支援体制を構築し、地方公共団体等からの相談対応や専門家派遣、導入可能性調査等の検討支援、情報発信などの伴走支援を実施 → **令和6年度は自治体への個別支援を重点的に実施**



（担当：総合教育政策局地域学習推進課）

れふあれんす

三題噺

連載その三百八

富士見市立中央図書館の巻

富士見市立中央図書館のレファレンス

一覚え間違い、思い違い一

◆
長谷川実

富士見市立中央図書館は、1994（平成6）年に現在の場所で開催し、今年で30周年を迎えます。2017（平成29）年度には大規模改修工事を実施し、快適にゆったりと利用できる滞在型の図書館となりました。市内には、分館が二つと公民館内に図書室が一つあります。

富士見市独自のサービスとしては、市内10カ所の公共施設で夜の10時まで予約資料の受け取りと返却をすることが可能です。元々、移動図書館が巡回していたのですが、その廃止に伴ってサービスがスタートしました。また、2021（令和3）年度からは、電子図書館、託児サービス、来館が困難な方向けの宅配サービスも実施しています。

子どもの読書推進に関する取り組みにも力を入れており、12カ月健診でのブックスタートに加え、市内の小学1年生全員に本をプレゼントするセカンドブック事業を実施しています。

今回は、当館で受け付けたレファレンスの中で、印象に残った事例を三つご紹介します。



その1

学校給食の今と昔の違いがわかる本を探している。

まず、業務端末でキーワード「学校給食」を検索し、所蔵状況を確認するとともに、該当資料と書架棚の資料内容確認（館内ブラウジング）をしました。

『学校と毎日の遊び』（ポプラ社 2015年）に、50年近く前の給食について記載があり、「コッペパン・びん入り牛乳・くじらの竜田揚げ」がメニューとして挙げられていました。

『ビジュアル版 学校の歴史 1』（汐文社 2012年）には学校給食のうつり変わりについて、「1889年山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）の私立忠愛小学校が始めたのが最初だと言われている」「家が貧しくて弁当を持って来られない子がいたため、弁当がひんぱんに無くなることをきっかけに始まった」と記載がありました。

また、『発見！ニッポン子ども文化大百科 3』（日本図書センター 2012年）には、学校給食の変化について記載があり、高度成長期には脱脂粉乳から牛乳に変わったことや、1976年から米飯給食が始まり、それに伴い副食に郷土食が出るようになった等の記載がありました。

『日本と世界のランキング大辞典』（くもん出版 2019年）には、「給食のメニューはどう変わった？」の項目がありました。1966年以前の好きな給食ランキングは、1位あげパン、2位カレーライス、3位がソフトめん、2013年では、1位カレーライス、2位鶏のからあげ、3位ハンバーグという結果が確認できました。

『くらしをくらべる戦前・戦中・戦後 1』（岩崎書店 2021年）には、学校給食について、明治時代に一部の学校で給食はありましたが、戦争を挟んでアメリカからの救援物資がありシチューと脱脂粉乳だけの学校給食が始まったと記載がありました。

最終的には、ご提供した資料をすべて借りて行かれ、調べ学習に活用するとのことでした。

その2

1866年～1867年パリ万国博覧会に行った参加者についての本を読みたい。たしか、渋沢栄一や大久保利通が参加していると思う。

業務端末で、キーワード「パリ万国博覧会」で所蔵検索をしました。『雨夜譚（あまよがり）余聞』（小学館

1998年)がヒットし内容を確認しましたが、参加メンバーについての記載はありませんでした。

次にキーワード「パリ万博」にて所蔵検索。『堂々日本史 5』(KTC中央出版 1997年)がヒットしました。当該資料の「花のパリで幕府を倒せ」の項目に、幕府側から派遣された「徳川昭武」、薩摩藩側から派遣された「岩下方平」の名前を確認することができましたが、メンバー全員の記載はありませんでした。

また、『洪沢栄一、パリ万博へ』(国書刊行会 1995年)では「プリンス昭武一行の出航」の項目に、幕府側メンバーの一部記載がありました。『博覧会と明治の日本』(吉川弘文館 2010年)にも、一部メンバーの記載がありました。

埼玉県立図書館に所蔵があった『プリンス昭武の欧州紀行』(山川出版社 2000年)『徳川昭武幕末滞欧日記』(山川出版社 1999年)については相互貸借を依頼しました。

次に、洪沢栄一に関する本を調べるために2類をブラウジングしました。

『洪沢栄一「日本近代資本主義の父」の生涯』(幻冬舎 2019年)の内容確認をしたところ、幕府側のメンバーについて記載がありました。また、『青年・洪沢栄一の欧州体験』(祥伝社 2011年)にも、パリ万博「航西日記」について一部記載がありました。

インターネットでも「パリ万博使節団」で検索したところ、「パリ万博使節団-Satsuma 1867-」に使節団メンバーの紹介を見つけました。

[URL: <https://www.satsuma1867.org/mission>]

また、万博や幕府から視点を変えてキーワード「薩摩藩」でも所蔵検索をしました。『若き薩摩の群像』(春苑堂出版 1991年)がヒットし、確認すると薩摩藩側メンバーについて記載がありました。

再度、館内ブラウジングをして『世界を見た幕末維新の英雄たち』(新人物往來社 2007年)に「遣仏使節団」人物の写真と名簿の記載を見つけました。

大久保利通についても所蔵資料を確認しましたが、1867年のパリ万博に行った記載は見つけられませんでした。

後日、県立図書館からの相互貸借資料を確認すると、『徳川昭武幕末滞欧日記』の幕府使節の項目にメンバーの記載がありました。また、『プリンス昭武の欧州紀行』パリ万国博覧会の項目にも佐賀藩側メンバーの記載がありました。

最終的には、参加メンバーの記載があった下記の資料すべてについてご案内しました。

『堂々日本史 5』、『博覧会と明治の日本』、『洪沢栄一、パリ万博へ』、『若き薩摩の群像』、『世界を見た幕末維新の英雄たち』

その後、改めて利用者より問い合わせがあり、『博覧会と明治の日本』を貸し出しました。

その3

タイトルを忘れた絵本「すみれの花が咲くと魚がいっぱいとれる。食料のない時代、女の子が自分のご飯も猫にあげる。夜、猫たちがいっぱい集まってくるとその猫の目がすみれの花々に見えた。」という内容で、この女の子が最後に死んでしまったのか生きてるのか知りたい。

たぶん富士見市の図書館で借りて娘と一緒に読んだ。

業務端末で、「すみれ ねこ」「ねこ 女の子」などで検索するも何もヒットしませんでした。次に検索エンジンで「絵本 すみれ ねこ」「絵本 ねこ 女の子」などで検索するもヒットしませんでした。(株)図書館流通センターの書誌情報検索システム TOOLi で「すみれ ねこ」「ねこ 女の子」などで検索するもヒットしませんでした。そこで質問者と一緒に絵本架で昔話を中心にねこがでてくる絵本を探しましたが見つかりませんでした。Webcat Plus を使い、あらすじ検索もしましたが、該当資料は見つかりませんでした。

後日調査として、近隣自治体の何館かの図書館に問い合わせをしたところ、絵本『すいせん村のねこやしき』について情報提供がありました。埼玉県内横断検索にて調べたところ、富士見市には所蔵がなく、隣のふじみ野市に所蔵があることが確認できました。

現物をふじみ野市から取り寄せて内容を確認したところ、「すみれ」と「すいせん」の花の違いはあるものの、その他の内容については質問者から聞き取った内容とはほぼ合致していることがわかりました。しかしながら、「女の子が最後に死んでしまったのか生きてるか」については作中で明示されていませんでした。

結果、絵本のタイトルは『すいせん村のねこやしき』丸橋 賢/作、剣持 宏/絵、剣持 奈々絵/絵(ストーク 2004年)、登場する女の子が最後に死んでしまったのか生きてるのかは不明、という回答となりました。

今回のようなケースは、公共図書館のレファレンスでは良くある事例で、所蔵館の間違いやタイトルの思い違いなどで、調査が難航することがあります。レファレンスインタビューを慎重に行っても回答にはたどり着けない例で、やはりどれだけの資料を知っているかが重要であると感じました。

(はせがわ みのはる: 富士見市立中央図書館)
[NDC10: 0152 BSH: レファレンス ワーク]

図書館員のおすすめ本^⑧

索引 〜の歴史 書物史を変えた大発明

デニス・ダンカン著 小野木明恵訳 光文社 2023
¥3,200 (税別)

図書館員にとって本の索引はなじみのアイテムである。だが、図書館員でもそれがどのように誕生し、現在に至っているのかあまり知らないのではないだろうか。私もその一人であった。

本書は、書物史の専門家である著者が古代から現代にわたる索引の成り立ちと、それに関連する多数の書物を紹介し、索引史とともに西洋書物史としても読めるものである。

索引が生まれる以前、卷子本の時代に索引の並べ方を決めた重要な発明があった。それは、古代アレクサンドリア図書館のカリマコスが作成した『図書目録』の著者名にアルファベット語順が使われ、後の索引語順へとつながっていったことだ。

13世紀には大学教育と托鉢修道会の出現により、講義や説教のために書物中を素早く効率的に検索することが求められる。そこで生まれたのが人名・地名など事項索引でおなじみの主題索引と、文中の単語を見出し語とする用語索引である。15世紀にはページの番号を印刷した索引があらわれ、「グーテンベルクの時代の次の世紀には、あらゆる種類の本に索引が登場」(p.129)し、現在のウェブページの索引へとつながっていく。

索引にまつわるエピソードも随所にちりばめられている。17世紀のイギリスの二大政党時代には、相手を嘲笑するために敵対する党派の出版物の索引を作って互いに争った。また、小説には索引がないものだが、ルイス・キャロルは『シルヴィーとブルーノ』で巻末に索引をつけた。逆に巻頭に索引がある小説も同時代に現れた。シャーロック・ホームズはあらゆることを思い出せるように犯罪記録の索引帳を作っていたこと等々、興味深い話の数々が、読者を飽きさせない。

巻末には本文をコンピューターで自動生成した膨大な数の索引と、索引家作成の適度な数の索引がある。両者の違いを見つけるのも楽しい。

(秋本 敏：元ふじみ野市立図書館)

中高生のための「かたづけ」の本

杉田明子、佐藤剛史著 岩波書店 (岩波ジュニア新書)
2014 ¥940 (税別)

以前勤めていた高校で、ビブリオバトルに参加予定の生徒と私の5人で練習をした。生徒が紹介した4冊は自分では選ばないものばかりで、どれも面白く、紹介した生徒のことを思い返したりした。唯一ノンフィクションだったこの本を紹介した生徒は、はたして「かたづけ力」は身についたのだろうか。トレーニング継続中だろうか。

紹介した生徒は、自分は「かたづけ」ができないので「かたづけ」についての本を読んでみた、と言っていた。そういう気持ちが、この本を手に入るきっかけ、という人は多いだろう。

著者は序章で、「かたづけ」が、実は「本当は楽しいこと」、「自分の『好き』を知る」、「自分の夢や希望に近づく」、「自分の思い通りに、自分の空間、時間、人生をつくり上げること」(pix) だと言う。「えっ、そこまで言う？」との感想を先読みしたように、「びっくりされた方、本当かどうかチャレンジしてみてはどうでしょう。」(pix) と続く。

著者は、自分でモノを選ぶ力をつけるための練習に重点を置いて、「練習」しましょう、と繰り返す。失敗OK、どんどん練習しましょう、と。

収納デザイナーとして、いろいろなところで行ったかたづけ指導の事例も紹介し、かたづけの手順を示す。「かたづけトレーニング」の手順は、「出す」「分ける」「選ぶ」「収める」の4つ。すべてはかたづける本人が決める。練習に必要な4つのチカラは、「時間」「体力」「想像力」「覚悟」。

十代よりも大人になってからのかたづけトレーニングが大変なことにも納得。十代のうちに読みたかったと少しだけ思い、親になる前にこの本に出会っていたら、子に「かたづけなさい！」という言い方以外の方法が身についていたかも、とも思う。でも、今からでも遅くはない。

(池沢満子：神奈川県立平塚ろう学校図書館)

図書館員のおすすめ本⑧6

限界ニュータウン 荒廃する超郊外に分譲地

吉川祐介著 太郎次郎社エディタス 2022 ¥1,800 (税別)

公共図書館に勤務していると、どこの地域にどれくらいの人に住んでいる…と把握しようと努めるが、その先の集落やかつて開発・分譲された土地の今の姿を見落としがちである。

著者は自身の結婚を機に千葉県の郊外で物件探しをする中で、かつて開発・分譲された地域の空き地の多さに驚く。訪問した分譲地や団地の現状と問題点を紹介したブログを開設するようになるのだが、調べれば調べるほど、さまざまな問題を抱えていることがわかる。かつて「ニュータウン」といわれ分譲されてきた地域でも、当時から交通の便は悪かった。近くに商業地や学校、病院などインフラ施設もなく、わずかな買い手しかつかず住宅がぼつぼつと点在するだけだった。限界集落ならぬ、限界ニュータウンと呼んだ。

もはや管理会社も存在しない看板が朽ちたまま放置されたところもあるなど、不動産の問題も一筋縄ではいかない。草木が伸び放題で荒れた地は、不法投棄も増え悪臭も漂うところもある。自治体もすべてを把握するのは難しい。ただ、こういった地域にも人々は住んでいるのである。

大きな災害が起こったとき、このような地域は特に復旧が難しいと2022年の福島県沖地震を例に著者はいう。たとえば私設の水道設備が壊れた場合、修繕費の負担が大きく、容易にできないのだ。

本書は千葉県北東部の地域を中心に調査され書かれているが、この限界ニュータウンのような場所は全国に存在する。行政サービスも図書館サービスも、こういったまちの現状を認識したうえでさまざまな計画を立てたり事業を行えたりしているだろうか。「図書館とまちづくり」という言葉が聞かれて久しいが、あなたは本当にこのまちを知っているのかと、問われているような1冊だった。

(村上さつき：松戸市立図書館、

日本図書館協会認定司書第1089号)

歴史を読み解く城歩き

千田嘉博著 朝日新聞出版(朝日新書) 2022 ¥910 (税別)

今、空前の城歩きブームだ。城の楽しみ方は広くて深い。天守や櫓などの建築物に関心を持つ人もいれば、石垣や堀といった土木建造物が気になる人もいる。深みにはまってくると建物^{くぼ}がまったく残っていない城跡や、地面のわずかな窪みを心から喜べるようになる。

本書において城郭考古学者である著者の千田氏は、日本の城にとどまらず、世界で共通する城のかたちに着目し、そこから見えてくる人類史上の城の普遍性について言及している。

特に印象に残った城を本書の中からいくつかあげる。武田信玄が本拠地とした躰躰ヶ崎館は対面と居住空間を分けた主殿、常ノ間などの御殿が軒を連ねた「室町時代以来の武家儀礼に則った理想的な館」であった(p.65)。領国の境には屈強な軍事要塞を築いた信玄が、本拠には山城でなくわざわざ館を選択することで甲斐源氏としての正当性、守護大名としてステータスを印象づけようとしたことを著者は指摘している。

もう一つの例として神戸市の兵庫城をあげる。この城は興味深いことに豊臣秀吉の毛利攻めに際して、「兵庫城の出入り口が二つ並ぶように改造されていた」(p.165)。館の正面に正門と通用門を並べて作るのは室町時代の最も格式が高い館のあり様であり、おそらく織田信長の進軍に際して臨時の御座所として用いるためだったと著者は推測している。城を読み解くことで、その城を築いた武将の考え方や人となりが見えてくる。信玄の誇りや秀吉の信長に対する気づかいは私は感じられた。

城歩きの楽しさは文字資料ではわからない歴史を体感できることだと思う。城は性別も年齢も関係なく楽しめ、誰もが観察することができる開かれた場所であり研究対象だ。城歩きの入門書として本書を紐解き、歴史を読み解く面白さを感じてほしい。

(みづあかり：高知県立図書館)

[NDC10：019.9 BSH：書評]

『図書館雑誌』バックナンバーのご案内

(定価は税込み。各号の在庫状況については、出版販売係 ☎03-3523-0812に直接お問い合わせください)

- ◆2019年1月号 (Vol.113 No.1) 平成30年度(第104回)全国図書館大会ハイライト 1,026円
- ◆2019年2月号 (Vol.113 No.2) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺 1,026円
- ◆2019年3月号 (Vol.113 No.3) 特集=防災・減災を考えるーその日に備えて 1,026円
- ◆2019年4月号 (Vol.113 No.4) 特集=これから図書館で働く人たちに 1,026円
- ◆2019年5月号 (Vol.113 No.5) 特集=平成の図書館 ピックアップ 1,362円
- ◆2019年6月号 (Vol.113 No.6) 特集=図書館のウェブデザイン 1,026円
- ◆2019年7月号 (Vol.113 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト 1,026円
- ◆2019年8月号 (Vol.113 No.8) 特集=NDC90周年とNCR2018刊行を記念して 1,362円
- ◆2019年9月号 (Vol.113 No.9) 特集=ボランティアとの協働を考える 1,026円
- ◆2019年10月号 (Vol.113 No.10) 令和元年度(第105回)全国図書館大会への招待 1,026円
- ◆2019年11月号 (Vol.113 No.11) 特集=スマホ世代と大学図書館 1,026円
- ◆2019年12月号 (Vol.113 No.12) 特集=情報リテラシーをめぐって 学校図書館を核に／
小特集=IFLA アテネ大会レポート 1,362円
- *
- ◆2020年1月号 (Vol.114 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺 1,026円
- ◆2020年2月号 (Vol.114 No.2) 令和元年度(第105回)全国図書館大会ハイライト 1,026円
- ◆2020年3月号 (Vol.114 No.3) 特集=災害から考える図書館 1,026円
- ◆2020年4月号 (Vol.114 No.4) 特集=読書バリアフリー法と図書館ー一步を踏み出す前に 1,026円
- ◆2020年5月号 (Vol.114 No.5) 特集=図書館とオリンピック 1,362円
- ◆2020年6月号 (Vol.114 No.6) 特集=児童・生徒の学びをサポート! 博物館図書室 1,026円
- ◆2020年7月号 (Vol.114 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト 1,026円
- ◆2020年8月号 (Vol.114 No.8) 小特集=AIを活かす図書館 1,362円
- ◆2020年9月号 (Vol.114 No.9) 特集=コロナ禍における図書館の現在 1,026円
- ◆2020年10月号 (Vol.114 No.10) 令和2年度(第106回)全国図書館大会和歌山大会への招待 1,026円
- ◆2020年11月号 (Vol.114 No.11) 特集=新型コロナウイルス流行下における大学図書館の非来館型
サービス 1,026円
- ◆2020年12月号 (Vol.114 No.12) 特集=電子メディアと学校図書館ーコロナ禍は、学校図書館の
「電子書籍元年」をもたすか 1,362円
- *
- ◆2021年1月号 (Vol.115 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺 1,026円
- ◆2021年2月号 (Vol.115 No.2) 令和2年度(第106回)全国図書館大会和歌山大会ハイライト 1,026円
- ◆2021年3月号 (Vol.115 No.3) 特集=東日本大震災から10年 1,026円

◆2021年4月号 (Vol.115 No.4) 特集=SDGsと図書館	1,026円
◆2021年5月号 (Vol.115 No.5) 特集=図書館員養成100周年	1,362円
◆2021年6月号 (Vol.115 No.6) 特集=図書館と公民館との連携を考える	1,026円
◆2021年7月号 (Vol.115 No.7) 特集=健康・医療情報のリテラシー	1,026円
◆2021年8月号 (Vol.115 No.8) 特集=図書館の話題アラカルト	1,362円
◆2021年9月号 (Vol.115 No.9) 特集=地域資料のいまとこれから	1,026円
◆2021年10月号 (Vol.115 No.10) 令和3年度(第107回)全国図書館大会山梨大会への招待	1,026円
◆2021年11月号 (Vol.115 No.11) 特集=国立国会図書館のデジタルシフト	1,026円
◆2021年12月号 (Vol.115 No.12) 特集=コロナ後の学校図書館へ/ 小特集=IFLA2021オンライン大会レポート	1,362円
*	
◆2022年1月号 (Vol.116 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2022年2月号 (Vol.116 No.2) 令和3年度(第107回)全国図書館大会山梨大会ハイライト	1,026円
◆2022年3月号 (Vol.116 No.3) 特集=図書館と命名権(ネーミングライツ)	1,026円
◆2022年4月号 (Vol.116 No.4) 特集=広がる広げる 子どもの読書環境としての公共図書館の今	1,026円
◆2022年5月号 (Vol.116 No.5) 特集=電子書籍と公共図書館-非来館型サービスとしての電子図書館	1,362円
◆2022年6月号 (Vol.116 No.6) 特集=図書館の広報を考える	1,026円
◆2022年7月号 (Vol.116 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2022年8月号 (Vol.116 No.8) 特集=認知症にやさしい図書館を目指して	1,362円
◆2022年9月号 (Vol.116 No.9) 令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会への招待	1,026円
◆2022年10月号 (Vol.116 No.10) 特集=大学にある児童図書館(室)	1,026円
◆2022年11月号 (Vol.116 No.11) 特集=図書館と個人文庫・文学館	1,026円
◆2022年12月号 (Vol.116 No.12) 特集=「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ/ 小特集=IFLA ダブリン大会レポート	1,362円
*	
◆2023年1月号 (Vol.117 No.1) 令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト	1,026円
◆2023年2月号 (Vol.117 No.2) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2023年3月号 (Vol.117 No.3) 特集=図書館の空間をデザインする	1,026円
◆2023年4月号 (Vol.117 No.4) 特集=コロナ後の図書館員の学び・交流	1,026円
◆2023年5月号 (Vol.117 No.5) 特集=県立図書館は今	1,362円
◆2023年6月号 (Vol.117 No.6) 特集=既存図書館のリニューアル	1,026円
◆2023年7月号 (Vol.117 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2023年8月号 (Vol.117 No.8) 特集=図書館と展示-資料から広がる世界	1,362円
◆2023年9月号 (Vol.117 No.9) 特集=図書館のビジュアルアイデンティティ	1,026円
◆2023年10月号 (Vol.117 No.10) 令和5年度(第109回)全国図書館大会岩手大会への招待	1,026円
◆2023年11月号 (Vol.117 No.11) 特集=表現する図書館員-書くことのすすめ	1,026円
◆2023年12月号 (Vol.117 No.12) 特集=2023年学校図書館の今 そしてこれから/ 小特集=IFLA ロッテルダム大会レポート	1,362円
*	
◆2024年1月号 (Vol.118 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円



日図協図書館 新着案内

●配列と記載事項について

単行書：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は書名の欧文、数字、五十音順とした。

「タイトル 巻次 著者 出版社 出版年月 ページ数 大きさ（叢書名）注記 ISBN 価格 NDC 記号」

要覧：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ」

館報：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月」

機関誌・団体報：館種、テーマによる NDC 記号順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ 注記 NDC 記号」

記事索引：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は記事タイトルの欧文、数字、五十音順とした。

「記事タイトル 著者 掲載誌 巻号 掲載ページ 掲載年月」

図書館関係

図書・資料・記事目録



単行書 紀要掲載論文

報告書・資料集・論文集など

図書館逍遙 新版 小田光雄著 論創社 2023.06 228p 19cm 978-4-8460-2286-0 ¥2200 010

「読書の自由」を奪うのは誰か 「自由宣言」と蔵書選択 馬場俊明著 青弓社 2023.11 238p 19cm 978-4-7872-0085-3 ¥2600 010.1

日本図書館史概説 新版 岩猿敏生著 日外アソシエーツ 2023.07 321p 19cm (図書館サポートフォーラムシリーズ) 978-4-8169-2973-1 ¥2970 010.21

図書館は生きている バクスキス著 柳美佐訳 原書房 2023.11 245p 19cm 978-4-562-07367-2 ¥2000 010.4

日本図書館文化史研究会 研究集会・会員総会 予稿集 2023年度 日本図書館文化史研究会 日本図書館文化史研究会事務局 2023.09 32p 30cm 期日・会場：2023年9月8日～10日、マリオス盛岡地域交流センター、アイーナいわて県民情報交流センター 010.6

めぐる、めくる、めくるめく 石川県立図書館の新世界 仙田満+環境デザイン研究所編著 建築画報社 2023.11 159p 28cm 978-4-909154-72-9 ¥3300 012

図書館用品カタログ集成—戦後編 小黒浩司編著 金沢文圃閣 2019.03 232p, 236p 22cm 全2冊・別冊(揃価) 978-4-909680-24-2 ¥42,350 012.9

図書館用品カタログ集成—戦後編 別冊 小黒浩司編著 金沢文圃閣 2019.03 63p 22cm 978-4-909680-25-9 ¥1500 012.9

眞野先生。本が傷んだら修理するだけじゃダメってホント？ ストーリーでわかる図書館の資料保全の考え方 眞野節雄監修 DBジャパン編刊 2022.09 151p 21cm 978-4-86140-296-8 ¥1980 014.61

問題解決のためのレファレンスサービス 改訂版 長澤雅男著；石黒祐子著 日本図書館協会 2023.11 xx, 319p 21cm 978-4-8204-2305-8 ¥1800 015.2

読書バリアフリーの世界 大活字本と電子書籍の普及と活用 野口武悟著 三和書籍 2023.07 136p 21cm 978-4-86251-509-4 ¥2200 015.97

平井先生。図書館では、視覚障害がある方に向けてどんな支援ができるの？ ストーリーでわかる視覚障害者サービスの考え方 平井利依子監修 DBジャパン編集 DBジャパン 2023.07 159p 21cm 978-4-86140-332-3 ¥1980 015.97

板橋 絵本のまちの中央図書館 板橋区立中央図書館・いたばしボローニャ絵本館たてものガイドブック 板橋区監修 フリックスタジオ 2023.01 183p 26cm 978-4-904894-57-6 ¥1800 016.2136

学校図書館をめぐる諸問題 日本図書館協会学校図書館部会第49回夏季研究集会東京大会報告集 日本図書館協会学校図書館部会幹事編 日本図書館協会学校図書館部会 2021.12 94p 30cm 会期・会場：2021

年8月1日～2日 日本図書館協会&オンライン 017
塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考 日本図書館
研究会学校図書館史研究グループ編著 塩見昇語
り手 日本図書館研究会 2023.05 544p 21cm
978-4-930992-30-7 ¥2700 017

知りたい気持ちに火をつけろ! 探究学習は学校図書館に
おまかせ 木下通子著 岩波書店 2023.06 202p
18cm (岩波ジュニア新書 970) 978-4-00-500970-
1 ¥940 017

ひらこう! 学校図書館 学校図書館を考える全国連絡会
第26回集会 学校図書館を考える全国連絡会編刊
2023.10 94p 26cm 内容: いま求められる学校図
書館専門職員制度 (塩見昇), 「学校図書館の現状に
関する調査」結果から (田中紘一) ¥頒価700
017.06

第56回造本装幀コンクール公式パンフレット 造本装幀
コンクール事務局 出版文化産業振興財団 2023.09
58p 19cm コンクール公式冊子 022.5

自費出版年鑑 2023 日本自費出版ネットワーク企画
サンライズ出版 2023.11 134p 26cm 978-4-88325
-799-7 ¥2200 023



要覧

年報・年史・業務報告・利用案内など

埼玉の公立図書館 (令和5年度) 埼玉県図書館協会
2023.10 68p 30cm

千葉県図書館 (2023 (令和5年度)) 千葉県公共図書
館協会 2023.10 93p 30cm

図書館要覧 (令和5年度) 松戸市立図書館 2023.11
43p 30cm

荒川区の図書館 (令和5年 (令和4年度事業概要)) 荒川
区地域文化スポーツ部ゆいの森課 2023.09 130p
30cm

小金井市の図書館 (令和4年度版) 小金井市立図書館
2023.09 34p 30cm

多摩市の図書館 令和4年度 多摩市立図書館事業報告
多摩市教育委員会教育部図書館 2023.08 100p 30
cm

交野市立図書館年報 (令和4年度) 交野市立図書館
2023.10 29p 30cm

MediaNet (2023) 30 慶應義塾大学メディアセンター

2023.10 96p 30cm



館報 協会報 機関誌

●日本図書館協会

学校図書館部会報 73 日本図書館協会学校図書館部会
2023.08 内容: 新部会長に就任して、部会長退任に
あたって、文字活字議員連盟、学校図書館議員連盟
の総会に参加して、シンポジウム「学校司書の社会的
地位向上をめざして」に参加して、＜私訳＞IFLA
学校図書館宣言、2023年度定期総会記録 (第39期第
1年度) 010.6

図書館雑誌 The Library Journal 117(12) (通巻1201)
日本図書館協会図書館雑誌編集委員会 日本図書館
協会 2023.12 内容: 特集 2023年学校図書館の今
そしてこれから、小特集 IFLA ロッテルダム大会
レポート、そして、バトンを渡される (大作光子)
(窓)、第2回「書店・図書館等関係者における対話の
場」を開催 (NEWS), 「図書館の非正規雇用改善の
ための連絡会」開催 (NEWS), 第60回韓国図書館大
会、開かれる (NEWS), 「学校図書館職員に関する
実態調査」への回答協力をお願い (N
EWS), 日本図書館協会目録委員会、『日本目録規
則』1952年版から新版予備版までインターネット公
開されたことを発表 (NEWS), 認知症が増加する社
会と図書館 (鈴木崇文) (こらむ図書館の自由), 令
和4年度「読書バリアフリーコンソーシアム」委託事
業の取り組み事例について (霞が関だより 241),
「ユネスコ世界ジオパーク」の町で30年 北海道・町
立類似図書館 (小規模図書館奮戦記 その307), 「栗
本薫・中島梓コレクション」「加太こうじコレクション」
葛飾区立中央図書館 (ウチの図書館お宝紹介!
236), 『塩見昇の学校図書館論』(図書館員の本棚),
聾学校のレファレンス 熊本県立熊本聾学校図書館
の巻 (れふあれんす三題噺 307), 図書館員のおす
すめ本 84, 公益社団法人日本図書館協会2023年度
通算第3回 (定時第3回) 理事会議事録, 公益社団法
人日本図書館協会2023年度通算第3回 (定時第3回)
理事会 配付資料, 図書館雑誌第117巻 (2023年) 総
索引 010.5

●国立国会図書館

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 298 国立国会図書館調査及び立法考査局 2023.12 016.11

レファレンス 876 国立国会図書館調査及び立法考査局 2023.12 016.11

国立国会図書館月報 752 国立国会図書館 2023.12
2023年12月号 内容：『河合ダンスグラフィック』芸妓バレエ団とモダニズム（今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から）、プランゲ文庫「再訪」プランゲ文庫の現在をさぐる（世界図書館紀行）、ビジュアル資料を探してみませんか 動物の画像を例に、人と資料の出会いを手助けする仕事 レファレンスサービスの現場（館内スコープ）、『ジャムコミ＝JAMSTEC comics』（本屋にない本）、「国立国会図書館オンライン」及び「国立国会図書館サーチ」のリニューアルに伴うサービスの休止について、年間索引 016.11

●協会報・館報

情報図書館だより 404 江別市情報図書館 2023.12

図書館通信 42(9) 511 登別市立図書館 2023.12

よむみる 374 恵庭市立図書館 2023.11

ハトダヨ 函館市中央図書館だより 91 函館市中央図書館 2023.12

まなベル 生涯学習情報誌 2023年（令和5年）12月号 356 訓子府町教育委員会 2023.12

ことばのうみ 宮城県図書館だより 76 宮城県図書館 2023.10

花さき山 434 筑西市立明野図書館 2023.12

図書館だより 475 新座市立図書館 2023.12

ひばり いなぎ図書館だより 210 稲城市立図書館 2023.12

図書館だより 104 国分寺市立図書館 2023.12

やまばと通信 249-258、特別号 多摩市立図書館 2022.05-2023.11 内容：（特別号）7月1日（土）多摩市立中央図書館 OPEN！

ひろば 日野市立図書館館報 292 日野市立中央図書館 2023.12

図書館だより No.Ⅲ (26) 武蔵野市立図書館編 武蔵野市立図書館 2023.11 内容：数字で見る武蔵野市立図書館、ほか

マーメイド通信 154 逗子市立図書館 2023.12

新潟県図書館協会報 257 新潟県図書館協会 2023.10

ソフィアだより (2023年秋号) 3 ソフィアセンター

(柏崎市立図書館) [2023.11] ソフィアお知らせ版 2023年10月-12月

パピルス 上越市立図書館だより 309 上越市立図書館 2023.12

読書山梨 154 山梨県立図書館 2023.10

かけがわ図書館だより 226 掛川市立図書館 2023.12

図書館だより 225 磐田市立図書館 2023.12

会報 174 大阪公共図書館協会 2023.09

としょかんだより 484 寝屋川市立中央図書館 2023.12

ひまわりだより 417 貝塚市民図書館 2024.01

しずく通信 236 猪名川町立図書館 2023.12 しずく
つうしん for KID'S 176

図書館だより 358 岩国市中央図書館 2023.12

らいぶらりえひめ 239 愛媛県立図書館 2023.10

コトノハ (2023年11月号) 14 オーテピア高知図書館 2023.11

としょかん通信 327 久留米市立中央図書館 [2023.12] 2023年ふゆ号

図書館おおいだ 学びの四季報 304 大分県立図書館 2023.09

*

ビブリア 160 天理図書館編 天理大学出版部 2023.10

Book Mark 城西大学水田記念図書館報 167 城西大学水田記念図書館 2023.12

My CUL 42 中央大学図書館 2023.11 内容：茗荷谷・駿河台キャンパスに新図書館ができました

GAIDAI BIBLIOTHECA 238 京都外国語大学付属図書館・京都外国語短期大学付属図書館 2023.12

温故知新 43 静岡文化芸術大学図書館・情報センター 2023.12

●機関誌・団体報

国立情報学研究所ニュース：NII Today 101 国立情報学研究所 2023.12 27p 30cm 007

情報の科学と技術 73(12) 情報科学技術協会 2023.12 42p [533-574p] 30cm 内容：特集：第20回情報プロフェッショナルシンポジウム INFOPRO2023を振り返って、第20回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO2023）開催報告、図書館における利用者の著作物の利用（連載：実務者のための著作権お悩み相談室 4）、「情報の科学と技術」2023 vol.73 総目次 007

LISN 198 キハラ株式会社マーケティング部 2023.12

21p 26cm 内容：特集「改めて『木』について考える」「木の良さ」研究のこれまでとこれから－木材利用の効果・効能を科学的に明らかにする取り組み－（杉山真樹）、見て触れて感じる木の良さ（仲村匡司）、木力検定でもっと木を学ぼう（東原貴志）、川下から川上へ、木のファンを育てる「おもちゃ美術館」（橋高春生）、リーディングトラッカーで読書をサポート（読書バリアフリーを進めるアイデアと工夫 3）（野口武悟）、『ひとかけらの木片が教えてくれること 木材×科学×歴史』『図書館員のための「やさしい日本語」(JLA Booklet no.15)』（資料紹介）010.5

Journal of I-LISS Japan 6(1) (通巻11) 国際図書館情報学会日本支部 2023.09 83p 30cm 内容：複雑な情報社会における多様なリテラシー（家柊淳一）、日本の公立図書館におけるLGBTQ関連図書の実態：開架／開架、展示、貸出、除籍に着目して（水沼友宏）、戦時期の堺市立図書館－田島清館長の活動を中心に（竹田芳則）、1970年代のアメリカ合衆国の州の学校図書館基準に見るスクール・ライブラリアン（school librarian, media specialist, AV specialist）の学校への配置基準（大城善盛）、I-LISS 2023 第7回国際会議に参加して（報告）、「第10回世界華語学校図書館論壇」参加報告（岡田大輔）、私と図書館情報学－もっと早く図書館情報学に出会いたかった－（四方未来）010.7

もっと！TRC MARCpedia 8 図書館流通センターデータ部 2023.12 [4p] 30cm 内容：学習件名・読み物キーワード検索 014

AJU 通信あけのほし 276 (通巻15040) ログス点字図書館 2023.12 8p 30cm 015.97

文庫だより 244 天理教点字文庫 2023.12 7p 30cm 015.97

むすびめ2000 124 むすびめの会 2023.12 36p 26cm 図書館と多様な文化・言語的背景をもつ人々をむすぶ人・言葉・生活・本・情報の通信 015.98

みんなの図書館 561 教育史料出版会（発行）2023.12 72p 21cm 1月号 内容：特集 滋賀県湖南市の石部図書館の存続を求めて ほかに 図書館問題研究会 茨城支部・茨城の図書館の歩み〔全2回〕その1－1900年代 支部結成30周年記念講演会資料より、滋賀県湖南市の石部図書館の存続を求めて（巽照子）、

中日新聞に掲載された図書館に関する記事 移動図書館を中心に（高柳有理子）、待ってました！図書館総合展2023リアル開催（今井つかさ）、国家試験「情報セキュリティマネジメント試験」合格記 各種資格試験等をサポートする図書館が現れてほしい（明石浩）、東近江市立図書館における開架室の発展過程とその背景にある考え方、そしてフロアワークの意義について 西田博志の発想その1（前崎徳生）、‘文部科学省選定国際卓越研究大学’？いまのこの国には‘科学’は似合わない？！ 研究教育に必需の情報を収集・提供、支援する図書館こそが競争のキーフクターなのに・・・（山本順一）、『動物園と水族館の教育』『「図書館」のないときから、あるときへ』（ほん・本・Book）、図書館問題研究会事務所在庫のお宝本紹介、図書館活動は平和を耕し続ける活動（column：図書館九条の会）（小池信彦）、『みんなの図書館』年間総目次2023 016.206

MOTTO 175 仙台にもっと図書館をつくる会 2023.12 12p 26cm 016.206

風 137 守谷の図書館を考える会 2023.12 4p 30cm 016.206

知恵の樹 277 町田の図書館活動をすすめる会 2023.10 8p 26cm 016.206

図書館とともだち 222 図書館とともだち・鎌倉 2023.11 12p 30cm 016.206

しぶほう 427 図書館問題研究会神奈川支部 2023.12 8p 26cm 016.206

よこはまライブラリーフレンド 76 よこはまライブラリーフレンド 2023.12 1枚 30cm 016.206

神資研ニュース 553 神奈川県資料室研究会 2023.12 6p 30cm 内容：ジャーナル・インパクトファクターの基礎知識（第691回例会 講演会）016.206

こどもの図書館 70(12) 児童図書館研究会 2023.12 20p 26cm 016.286

児図研埼玉支部だより 39 児童図書館研究会埼玉支部 2023.12 [4p] 30cm 016.286

児図研東京支部ニュース 449 児童図書館研究会東京支部 2023.12 8p 26cm 016.286

支部だより 443 児童図書館研究会神奈川支部 2023.12 8p 26cm 016.286

掛川市子どもの読書活動を考える会報 58 掛川市子どもの読書活動を考える会 2023.12 12p 30cm 016.29

- 京庫連だより 2023-7 京都家庭文庫地域文庫連絡会
2023.12 10p 26cm 付録：本の紹介 016.29
- 大子連ニュース 423-424 大阪府子ども文庫連絡会
2023.11-12 2冊 26cm 016.29
- 学図研ニュース 454 学校図書館問題研究会 2023.12
22p 26cm 017.06
- 学校図書館 878 全国学校図書館協議会 2023.12 88p
26cm 内容：特集 子供の読書の現状（第68回学校
読書調査報告） 知的障害のある人の読書を支援する
ーだれもが楽しめるわかりやすいLLマンガ（教育
時評 301）、教職員の思いを生かした学校図書館づ
くり 2（キラリ！司書教諭 231）、“学びの場”と
しての図書委員会活動（きらり！学校司書 66）、公
益社団法人全国学校図書館協議会第43回理事会ー
2023年度正味財産増減計算書内訳表、学校図書館セ
ンターの23年間ー1976年設立決議から2023年の記録
017.06
- 学図研ニュース・東京 372-373 学校図書館問題研究会
東京支部 2023.10-11 2冊 26cm 017.06
- 本があって人がいる学校図書館を願う会ニュース 30
本があって人がいる学校図書館を願う会 2023.12
10p 26cm 017.06
- 図書館教育ニュース（付録） 1644-1646 少年写真新聞
社 2023.12 3冊 26cm 内容：（1644）漫画から学
びの世界を広げる（実践報告）、（1645）簡単に作れ
る和綴じ風豆本（すぐに作れる！学校図書館で役立
つ素材集 19）、（1646）開かれた図書館を目指して
ー校内読書週間の取り組みー（実践報告） 017.1
- 小学図書館ニュース（付録） 1312-1314 少年写真新聞
社 2023.12 3冊 26cm 内容：（1312）どうする！
これからの学校図書館（実践報告）、（1313）1年目！
新米司書フントー記 第8歩 ブックトークのそのあ
とに、（1314）どうする！これからの学校図書館（実
践報告） 017.2
- 大学の図書館 42(10) 599-600 大学図書館研究会編集
大学図書館研究会 2023.10-11 2冊 26cm 内容：
特集 全国大会フラッシュ 017.706
- 専門図書館 特別号.315 専門図書館協議会 2023.11-
12 2冊 26cm 内容：（特別号）特集 全国研究集
会、2023年度全国研究集会の概要、第1分科会 危機
下での図書館活動、第2分科会（1-2）レファレンス
協同データベースの利活用、第2分科会（2-2）海事

図書館におけるレファレンス協同データベースの活
用、第3分科会 専門図書館における資料保存マネジ
メントの理論と実践「利用のための保存」再考、第
4分科会 アーカイブズのその前にーアーキビストが
関与する前に勝負はついていた…、第5分科会 本の
ある居場所とLGBTQ…、第6分科会 図書館等公衆
送信サービス、第7分科会（1/3）知的な活気にあふ
れる石川県立図書館、第7分科会（2/3）テラソの企
画の生まれ方 交流と創造を楽しむ文化の拠点を目
指して、第7分科会（3/3）「かえりたい図書館」を
つくる、深める、広める：椎葉村図書館「ぶん文
Bun」のソーシャルイノベーション、（315）特集 租
税をまなぶ、成人向け租税教育の現状と展望（酒井
克彦）、「公益財団法人 租税資料館」の紹介（菅野
隆）、税に関する専門図書室 公益財団法人日本税務
研究センター図書室のご紹介（坂本和重）、財務省図
書館について 財務省の歴史が詰まった財政に関す
る専門図書館（佐藤かおる）、（公財）東京税務協会
／税務広報資料室「地方税に関する書籍等を保存」
（加藤隆）、荒川区立図書館のビジネス支援サービ
スの森あらかわの取り組みを中心として（大場康
智）、まちなかの図書館の取り組み ーひとつとつな
がり、まちとつながるー（大谷ゆき）、メタデータ流通
ガイドライン 研究データ編（ござんじですか？
133）、iU Library（専門図書館を見る 263）、三康
図書館リニューアルの記録（私の仕事、わたしの一
日 56）、『図書館資料の保存と修理 ーその基本的
な考え方と手法』『はじめての電子ジャーナル管理
改訂版』（資料紹介） 018.06

国立公文書館ニュース 36 国立公文書館 2023.12 7p
30cm 内容：特集 貴重な歴史資料を後世へ：国立
公文書館への寄贈・寄託 018.09

博物館研究 58(12) 667 日本博物館協会 2023.12
56p 30cm 内容：特集 「収蔵庫をめぐる問題」
069

東京都美術館ニュース 476 東京都美術館 2023.11
15p 21cm 069

●出版・著作権

コピライト 752 著作権情報センター 2023.12 72p
30cm 内容：解説2 著作権法の一部を改正する法律
（令和5年改正）について＜前編＞・文化庁著作権課
021.2

JASRAC NOW 791 日本音楽著作権協会 2023.12
13p 30cm 021.23
JPIC NEWSLETTER 250 出版文化産業振興財団 (J
PIC) 2023.12 [2p] 30cm 023
アクセス 地方小出版情報誌 563 地方・小出版流通セ
ンター 2023.12 12p 26cm 023
書協 396 日本書籍出版協会 2023.11 6p 26cm 023
子どもと科学よみもの 2023年12月号 537 科学読物研
究会 2023.12 28p 26cm 023.09
こどもの本 616 日本児童図書出版協会 2024.01 48p
21cm 023.09
子どもの本棚 662 日本子どもの本研究会 2023.12
48p 21cm 023.09
日本古書通信 1133 日本古書通信社 2023.12 47p
26cm 024.8



図書館関係 雑誌記事索引

010.1 図書館の自由

認知症が増加する社会と図書館 鈴木崇文 (こらむ図書
館の自由) 図書館雑誌 117(12) p731 2023.12

010.2359 図書館—オランダ

オランダの図書館 高橋美貴 (小特集 IFLA ロッテル
ダム大会レポート) 図書館雑誌 117(12) p760
2023.12

010.31 図書館—書誌, 文献目録, 索引, 抄録集

図書館雑誌第117巻 (2023年度) 総索引 日本図書館協会
図書館雑誌 117(12) 巻末 2023.12

010.6 国際図書館連盟

IFLA 学校図書館分科会の活動 ロッテルダム大会報告
とオランダの学校図書館事情 庭井史絵 (小特集
IFLA ロッテルダム大会レポート) 図書館雑誌 117
(12) p759 2023.12

地域資料&系図学会サテライトミーティングに参加し
て 長塚隆 (小特集 IFLA ロッテルダム大会レ
ポート) 図書館雑誌 117(12) p758 2023.12

図書館界の国際協調 IFLA ロッテルダム大会 三浦太
郎 (小特集 IFLA ロッテルダム大会レポート) 図
書館雑誌 117(12) p754-757 2023.12

010.6 韓国図書館大会

第60回韓国図書館大会, 開かれる (NEWS) 図書館雑

誌 117(12) p729 2023.12

010.6 日本図書館協会

公益社団法人日本図書館協会2023年度通算第3回 (定時第
3回) 理事会 配付資料 図書館雑誌 117(12)
p775-779 2023.12

公益社団法人日本図書館協会2023年度通算第3回 (定時第
3回) 理事会議事録 図書館雑誌 117(12) p767-
774 2023.12

013.1 図書館職員

「学校図書館職員に関する実態調査」への回答協力のお願
い (NEWS) 図書館雑誌 117(12) p729 2023.12
「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」開催 (NE
WS) 図書館雑誌 117(12) p729 2023.12

014.3 目録法

日本図書館協会目録委員会, 『日本目録規則』1952年版か
ら新版予備版までインターネット公開されたことを
発表 (NEWS) 図書館雑誌 117(12) p730 2023.
12

015.2 レファレンス ワーク

聾学校のレファレンス 池浦雅子 (れふあれんす三題噺
307 熊本県立熊本聾学校図書館の巻) 図書館雑誌
117(12) p762-763 2023.12

016.211 図書館 (公共) —北海道

「ユネスコ世界ジオパーク」の町で30年 小川静香 (小
規模図書館奮戦記 その307 北海道・町立様似図書
館) 図書館雑誌 117(12) p751 2023.12

016.2152 図書館 (公共) —長野県

市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」に
おける学校との活用連携について リアルとデジタ
ルのベストミックスを目指して 宮崎摩紀, 宮澤優
子, 中村仁美, 清澤千夏, 小松久美, 干川優 (特集
2023年学校図書館の今 そしてこれから) 図書館雑
誌 117(12) p744-747 2023.12

017 学校図書館

そして, バトンを渡される 大作光子 (窓) 図書館雑
誌 117(12) p728 2023.12

学校図書館におけるデジタル情報資源の活用 千田つば
さ (特集 2023年学校図書館の今 そしてこれか
ら) 図書館雑誌 117(12) p740-741 2023.12

学校図書館法 2014年法改正前後から現在まで 高橋恵
美子 (特集 2023年学校図書館の今 そしてこれか
ら) 図書館雑誌 117(12) p737-739 2023.12

学校図書館法70周年を懸案課題打開の起点に 塩見昇

(特集 2023年学校図書館の今 そしてこれから)

図書館雑誌 117(12) p734-736 2023.12

塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考 松井正英

(図書館員の本棚) 図書館雑誌 117(12) p761

2023.12

令和4年度「読書バリアフリーコンソーシアム」委託事

業の取り組み事例について 文部科学省 (霞が関だ
より 241) 図書館雑誌 117(12) p748-750 2023.

12

令和4年度文部科学省委託事業アンケート調査から見る

学校図書館と読書バリアフリーの現状と課題 読書

活動へのアクセシビリティ保障 風早史子, 近藤武

夫 (特集 2023年学校図書館の今 そしてこれか

ら) 図書館雑誌 117(12) p742-743 2023.12

024 図書の販売

第2回「書店・図書館等関係者における対話の場」を開

催 (NEWS) 図書館雑誌 117(12) p729 2023.12

028 紹介本

『キャンサーロスト 「がん罹患後」をどう生きるか』『エ

ネルギーをめぐる旅 文明の歴史と私たちの未来』

『概説西洋政治思想史』『古代中国の日常生活 24の

仕事と生活でたどる1日』 佐藤正恵, 富樫和行, 山

重壮一, 山田広樹 (図書館員のおすすめ本 84)

図書館雑誌 117(12) p764-765 2023.12

090 図書館資料

「栗本薫・中島梓コレクション」「加太こうじコレクショ

ン」 葛飾区立中央図書館 田中雅志, 鈴木慶子

(ウチの図書館お宝紹介! 236) 図書館雑誌 117

(12) p752-753 2023.12

373 文部科学省

文部科学省, 特設ページ「子供の読書キャンペーン～き

みに贈りたい1冊～」を開設 (NEWS) 図書館雑

誌 117(12) p730 2023.12

協会通信

常任理事会

日時：11月22日(水) 14:00～15:07

会場：日本図書館協会 2階研修室・Web会議 (Webでの出席は「W」と記載)

出席常任理事：植松貞夫 (理事長)、鈴木隆 (副理事長)、岡部幸祐 (専務理事兼事務局長兼出版部長)、海老根裕 (専務理事)、植村八潮 (常務理事)、杉本重雄 (常務理事：W)、曾木聡子 (常務理事兼総務部長)、成瀬雅人 (常務理事)

列席理事：関根美穂 (国立国会図書館：W)、角田裕之 (図書館情報学教育部会)、清水俊治 (公共図書館部会：W)、本木正人 (大学図書館部会：W)、深水浩司 (専門図書館部会)、高橋恵美子 (学校図書館部会)
列席監事：中山勝文、中山司朗 (W)

＊

1. 会議成立要件の確認

岡部専務理事兼事務局長兼出版部長 (以下「事務局長」という) より、議事に先立って、会場及びZoom上の画面で本人の出席を確認し、出席者が定足数を満たし会議が成立することが確認された。

2. 開会宣言・理事長挨拶

植松理事長 (以下「理事長」という) より、開会が宣せられた。

＊

〈協議・報告〉

1. 2023年度通算第2回 (定時第2回) 代議員総会の開催について

事務局長より、資料に基づき説明があった。2024年3月14日(木)13時

から17時とし、日本図書館協会館2階研修室において対面・オンライン併用のハイブリッド方式で行うことを提案する。議題については、理事会での審議の進捗にもよるが、定款の改正について、公益社団法人日本図書館協会会員の種類及び会費に関する規程の改正について、報告として2024年度公益社団法人日本図書館協会事業計画について、2024年度公益社団法人日本図書館協会予算について、代議員定数等検討委員会報告について、代議員選挙規程の改正について、を予定している。

出席できない代議員の議決権の行使方法については、書面決議または委任状による形にしたいと考えている。オンラインの併用の是非については、これまであまり明確な確認ができていなかったが、公益法人協会の機関誌『公益法人』2023年11月号によると、社員総会のWeb開催について、いくつか留意点はあるものの、現在、Web会議を併用するハイブリッド参加型で開催することは、特に問題がないということになっている。公益法人協会に改めて確認したところ、既にオンラインでの開催をしているところもあり、問題はないとの回答があった。ただ、停電等の非常時における対応については理事会で事前の確認が必要となる。以上を踏まえ、停電等非常時における延期または続行については、復旧の見込みがある場合は復旧後に続行する。また復旧の見込みが立たないような停電等非常時の場合には、予備日を予め定めておき、改めて開催す

るというような形にしたいと考えている。この内容で理事会にお諮りすることとしたい。

〈主な意見など〉

高橋：出席できない代議員の議決権の行使方法が書面決議および委任状ということは、オンラインで出席している代議員は代議員総会で議決ができるようになるという理解でよろしいか。

事務局長：それを想定している。

理事長：リアルでもオンラインでも両方参加できない方が、出席できない代議員に相当する。また、この「停電等非常時」で想定しているのは、代議員総会の主催者側の問題のことであり、メイン会場が停電になった場合や、会場周辺で急に事故があって停電が起こる場合等が挙げられる。その場合には、例えば、代議員総会開催日の1週間後を予備日とし、それを事前に主催者側から参加者に通知しておいた上で、当日は停電の復旧する見込みがないので中止し、予備日に再び開催という運びとなる。ただし、参加者側が突然停電してしまった場合には、リアルな会場でいうところの、体調不良等による一時退出と同様の扱いとなり、その時点で投票議決に参加できないとする。

深水：議案1、2については、原案が2月22日の理事会で提出されるという理解でよろしいか。

理事長：その予定である。代議員選挙に関わる部分のため、3月に改正しないといけないものではない。また、代議員定数等検討委員会の事柄

に関しては、理事会等で意見があるかもしれないので、そこまでに詰めきれなければ、その次の代議員総会にすることという想定できる。

深水：会員の種別についてはここで決めるのか。

理事長：可能な限り、決めたいと考えている。

中山（司）：代議員総会をハイブリッド方式で行うという点について、顧問法律事務所というよりは、弁護士に相談して確認を取っていただきたいと考える。話を伺っていると、ハイブリッド、もしくはオンラインで接続して参加した方でも完全に出席と扱う、つまり議決権行使もできるという前提で議論しているという理解でよろしいか。

事務局長：ご指摘の通りである。

中山（司）：それが本当に耐えられるのかということが、申し上げたい点の一つ。もう一点は、手続き面で、定款、あるいはその下の規程によって、ハイブリッド方式の会議を開催できることが予め決められていることも必要だったというのが、従前の理解であると認識している。その手続きの問題と、いずれにしても今の定款ないし規程の前提で、オンライン参加の代議員も議決権行使が行えるということ、従前の「完全出席型」が行えるのかということに関しては、そこは慎重に考えていただきたい。確認されてはいかがか。

事務局長：公益法人協会の機関誌『公益法人』では、「社員総会・評議員会及び理事会の開催についてWeb会議方式を用いることが増えてきたが、定款等を変える必要があるか」という質問に対して、「Web会議方式は有効な出席になるように留意すれば、定款に定めがなくても活用が

できる」という回答が書かれている。また、「Web等によっても、出席と同様の状況であると認められれば、出席者としてカウントできる。」とあり、この「同様」というところが、特に具体的な記載はないものの、その点を公益法人協会の相談員に確認したところ、通常のWeb会議、Zoom上で会話ができるような状況であれば問題はないということだった。念のために顧問弁護士にも確認をしたい。

中山（司）：まだその掲載記事は見えないが、例えば取締役会と株主総会では、全く会社法等の見方が違うものとする。取締役会は、顔を合わせており、人数が少ないこともあり、お互いが大体わかっているのに、Web参加の場合は声だけでも別に問題はないという反面、株主総会となると、人数も多くなり、本人が本当に出てくるのかなど、要は同質に論じられない部分があるため、当該記事については疑問の余地がある。そこは慎重に顧問弁護士の目から見ても、それで耐えられるのかどうか、確認していただいた方がいいと考える。

事務局長：承った。顧問弁護士に確認する。

2. 代議員定数等検討委員会報告書（最終補訂版）について

事務局長より、資料に基づき説明があった。代議員定数等検討委員会は報告書（最終補訂版）を作成し、理事会からの指摘事項に対応した部分及び、その他修正した部分についても別に文書としてまとめられている。報告書は12月の理事会にお諮りすることとする。

3. 共催・後援名義の応諾について

以下の後援名義等について承認し

た。

【後援】

・「第8回森林のまち童話大賞」（浜松市）

・第8期「山根基世の朗読指導者養成講座」（公益社団法人文字・活字文化推進機構）

・「アジアの図書館サポーター」（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）

・「絵本を届ける運動」（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）

・「令和5年度東京都多摩地域公立図書館大会」（東京都市町村立図書館長協議会）

〈主な意見など〉

鈴木副理事長（以下「副理事長」という）：名義使用許諾申請書について、共催・後援等団体の名称を「(公社)」ではなく、「(社)」と表記しているものがあるが、次回からの申請では直していただきたい。

曾本常務理事兼総務部長（以下「総務部長」という）：申請団体に伝えておく。

4. 寄附金について

以下の寄附金について、承認した。

・2023年10月7日～11月17日入金分
一般寄附金：6件 29,410円
指定寄附金：8件 40,920円
合計：14件 70,330円

〈主な意見など〉

総務部長：指定寄附として、先月に続き、高校生からご寄附いただいている。

深水：それは唐突にあったのか、それとも何かきっかけがあったのか。

総務部長：当協会から呼びかけはしていないが、高等学校の図書委員会等で行った古本市の収益を、災害対策を目的として寄附していただいている。

深水：日本図書館協会に寄附金として出すというのは、誰かから言われて決まったのか知りたい。例えば、図書館の司書教諭の先生が日本図書館協会への寄附を提案したのか、何かきっかけがあるのではないかな。

総務部長：今年になって立て続けに來ている例なので、先方に連絡して確認する。また、高校生からということなので、理事長の署名で何らかのお礼をしたいと考えている。

深水：もし何か動機があれば、それをきっかけにさまざまなつながりができるかもしれない。

高橋：文化祭等でお金を集める際に、かつては学校図書館で使い道を考え、本を購入するか、なかなか入られない漫画を購入するということも多かった。もしかすると最近では、自分たちのために使うというのはやめて、どこかの団体に寄附した方がよいのではないかという流れがあるのかもしれない。

5. 新入会員の承認について

以下の新入会員について、確認し承認した。

・2023年11月15日現在

個人会員A：7名

個人会員B：1名

6. 報告事項

(1) 2023年度災害等により被災した図書館等への助成の審査結果について

副理事長より、資料に基づき説明があった。助成機関及び助成金額は12機関、288万円である。財源については、一ツ橋総合財団からの給付金が233万3754円と、西日本豪雨による図書館災害復興支援の寄附金の残額があったので、その分を加算して288万円とした。なお、助成機関のうち、学校法人淡窓学園（筑紫野中央幼稚園）

については、1階にあった本が濡れてしまったということで、幼稚園そのものを対象にするべきか議論もあったが、読書環境を整備する上では必要なことであり、今後は公共図書館等から団体貸し出しを受けるようなことも含めて検討していただくということで助成する運びとなった。助成金額は8万円と少ないものの、おそらく幼稚園にとってはかなり大きい額になると考える。他、例年それぞれの学校・機関等から出た要望に基づいて、判断をした金額となっている。なお、助成しない機関は10機関であるが、審査基準に基づいて判断している。このような判断をした結果、図書館災害対策委員会としては、12機関に助成をし、10機関には助成をしないという結論に至った。

(2) 書店・図書館等関係者における対話の場（第2回）について

事務局より、資料に基づき説明があった。書店・図書館等関係者における対話の場（第2回）（以下「対話の場」という）が10月30日に開催された。第2回もWebでの開催となった。議題については書店・図書館等を巡る現状と課題、今後の連携のあり方であり、3人の方から発表いただいた後、意見交換という形になっている。

井之上健浩氏（株式会社久美堂代表取締役社長）からは、書店と図書館の連携に関して、図書館の予約本の受け取りサービスを久美堂書店の店舗で行っているという事例の報告があった。

浅野隆夫氏（札幌市役所まちづくり政策局政策企画部プロジェクト担当部長・札幌市中央図書館調整担当部長）からは、図書館の現状に関し

て、札幌の図書・情報館の試みや、その他新しい図書館のあり方を実現するような図書館について、紹介があった。

松本修一氏（一般財団法人出版文化産業振興財団専務理事）からは、書店の在庫の検索システムについて、株式会社カーリルが運営している全国の図書館の横断検索のようなイメージで、全国の書店在庫の検索ができるシステムの試みについての発表があった。

これらも踏まえての議論となったが、そもそものこの「対話の場」の問題である「複本」のことや、出版社からかねてより指摘されている新刊本の貸出猶予、文庫本の所蔵について等、この「対話の場」で一度結論を出しておいた方がいいのではないかという提案があった。それらについての共通理解のもとに、その議論を一度凍結するというような形にした上で、書店・出版社・図書館の連携を検討していくという方向になった。第3回を2024年1月、第4回を3月、今年度あと2回開催の予定である。

〈主な意見など〉

植村：私は最初「棚上げ」、最終的には「凍結」という言葉で提案したが、それはもともとエビデンスに基づいて調査しても、常に出版社等から異論が出る。10年経って新しい作家が出て、人が替わっても、また指摘される可能性があるのだから、一回この議論はもう止め、むしろ図書館と書店に何ができるかという観点から、読者の育成への議論を進めるべきというような提案をした。成瀬理事から非常に上手く次に誘導していただいたこともあり、作家、あるいは出版社も概ねその方向に向いたよ

うに考えている。いつまでも「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」の最初の疑問である、図書館が本の売りに影響を与えているという見方で解決しようとするのは難しい。むしろわたしたちにできることは読者の育成であるという方向にしていきたいと考え発言した。

成瀬：この「対話の場」については、植村理事からの発言の通りである。その後、11月8日・9日に開催された「京都ブックサミット」(KYOTO BOOK SUMMIT)や、11月16日・17日の全国図書館大会の分科会でも、継続して、「対話の場」関連のテーマで議論が続き、さらに、この「対話の場」は3回目、4回目の予定も決まった。こういう議論が続いていくということが重要であり、その中身は、なるべく今の植村理事の話のように前向きな方向に持っていければ良いと考えている。

植村：なぜ「凍結」という言葉に拘ったかについて補足したい。図書館が書店の本の売上に影響を与えているという前提を曖昧にしたまま議論を進めると、今後、例えば図書館で本の売場を作るとか、図書館でOPAC検索すると、その近隣の書店の在庫状況がわかり、それを書店への導線にするとか、そのような取り組みもやればやるほど、「図書館は本の売りに影響を与えているのだから、せめて売りに貢献すべき」という論理になりかねない懸念がある。そのような論理にならないようにするためにも、一回確実に「凍結」するべきことを提案した。そこは慎重に期したいと考えた。

理事長：一方で、全ての自治体の4分の1は、もう書店がないという状

況であるため、そこに図書館として何ができるかということも考えていく必要がある。「対話の場」第2回について、今後何か公表されるか
事務局長：現在、議事要旨をまとめており、確定したら公開する。第2回の会議資料については、もう既に公開されており、日本図書館協会のホームページからリンクを貼っている。

(3) 2024年度児童図書館員養成専門講座の実施について

総務部長より、資料に基づき説明があった。

募集人数については、これまで20名程度としていたが、研修のスムーズな運営の問題から実際の参加者は16～18人程度だった。募集人数と参加人数を合わせるということで、2024年度の募集人数を16名程度に変更する。講義の科目の内容や、講師の詳細については、現在、児童青少年委員会が計画をまとめている。

(4) 第109回全国図書館大会岩手大会について

副理事長より、説明があった。

11月16日・17日に、岩手県盛岡市の盛岡地域交流センター(マリオス)・いわて県民情報交流センター(アイーナ)で開催された。全体会では国立国会図書館の関根理事からも吉永館長の代理としてご挨拶等、ご協力いただいた。

全体会は、大会会長である遠増岩手県知事のご挨拶から始まった。全体会では、まだ数字が確定したものは出ていないが、600名強、700名近い参加があった。冒頭は、不來方^{ニヤカタ}高等学校の合唱部が、オープニングイベントを開催した。全国大会でもかなり優勝をしている実力のある合唱部であり、大変美しい合唱だった。

ただ残念なことに、この高等学校は、2年後に統廃合でなくなってしまうことがホームページに書かれており、大変残念だが、その思いも伝わってくるような素晴らしい合唱だった。

また、17時半からは懇親交流会が開かれ、推定230人が参加した。会場がやや狭いという感もあったが、参加者は久々の対面式ということもあり、交流会を楽しんでいた。盛岡伝統のさんさ踊りも入り、なかなか聞きごたえ・見ごたえのある会合になった。懇親交流会は、植村理事・成瀬理事の二人に司会進行を務めていただいたため、スムーズに終了した。

翌日は14の分科会が開催された。午前・午後合わせて707名程の方が参加したと聞いている。どの分科会も大体上手くいったが、「第10分科会 災害と図書館(図書館災害対策委員会)」は、42名の定員のところ、参加者がオーバーし、部屋を変更できれば良かったができなかった。それ以外の分科会は、ゆったりと座れて参加できたと考える。対面式につき、岩手県立図書館は、苦労していたが、うまく運営していたように感じた。
(主な意見など)

事務局長：日本図書館協会でブースを出展し、その場で協会グッズ・書籍の販売を行った。書籍では、新刊のブックレット、『図書館等公衆送信サービスを始めるために 新著作権制度と実務』が50冊、「図書館員のための「やさしい日本語」」が28冊売れた。

成瀬：些細なことで、この場で申し上げるのも恥ずかしいが、第39回日本図書館協会建築賞(以下「建築賞」という)を受賞した図書館の挨拶は、

昼間の会議の場で行うべきものと考ええる。あの場で建築賞のことについて何も触れなかったから、結果として、懇親交流会での挨拶がやや長めになってしまった。ただ公的なものであれば、本来は公的な場でやった方がよいとは考える。

理事長：次回はそうように図らいたい。本当に皆様のおかげで滞りなく、開催することができた。特に、関根理事には感謝申し上げる。

関根：館長が出席できなかったことをお詫びする。全体として非常に素晴らしい運営であり、関わった皆様に本当に御礼申し上げます。当日岩手県立図書館の方に聞いたところ、この全国図書館大会のために、通常20時まで開館のところを会期中の2日間は19時閉館にするという体制を組んで臨んだという話も聞いた。やはり、なかなか対面開催は現地の方の

労力がかかるということを実感したことを感想として申し述べる。

理事長：われわれ業務執行理事は、以前の業務執行理事から多くが交代したため、対面での全国図書館大会の細部の手順等がわからなくて苦労した。ノウハウを記録して伝えていきたい。

*

*今後の予定

・2023年度通算第4回（定時第4回）理事会

日時：2023年12月21日（木）13時30分から

・2023年度第7回常任理事会

日時：2023年1月25日（木）14時から

事務局カレンダー

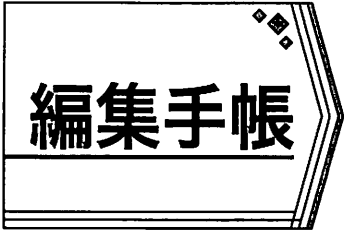
*○印の日が事務局のお休みです。

2024年2月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	③
④	5	6	7	8	9	⑩
⑪	⑫	13	14	15	16	⑰
⑱	19	20	21	22	⑳	㉔
㉕	26	27	28	29	*	*

2024年3月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	1	②
③	4	5	6	7	8	⑨
⑩	11	12	13	14	15	⑰
⑱	18	19	㉒	21	22	㉓
㉔/㉖	25	26	27	28	29	㉚



編集手帳

今号は、2023年11月16日と17日に岩手県盛岡市で開催された「令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会ハイライト」についてお届けします。

これまではコロナ禍でオンライン開催でしたが、今大会は、4年ぶりの対面での開催となりました。オンラインは、離れていても参加できる便利さはありますが、その場所の空気感や熱気を感じたり、参加者同士で気軽に交流できるのは、実際に会

場に足を運ぶからこそではないでしょうか。またその土地の美味しいものに舌鼓を打ったり、現地の図書館を見学してみるのも楽しみの一つかもしれません。そのことは今大会に参加された方の感想からも大会だけでなく現地の図書館を訪れる楽しみが伝わってきます。「理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～」をテーマに掲げた今大会は、それぞれの分科会報告や参加された方の中から、どの会場も熱気があり盛況だったことが報告されています。来年の開催地は長崎県です。今回は参加できませんでしたが来年こそは、参加したいなと思っています。

1月1日に発生した「令和6年能

登半島地震」では、大きな被害が出ています。この原稿は発災から2週間が経過した時点で書いていますが、日本図書館協会のホームページで図書館の被災状況を確認すると、復旧作業が進み開館する図書館がある一方で、休館を余儀なくされている図書館があります。今大会の開催地岩手県は、東日本大震災の被災地であり、第10分科会では「災害と図書館」というテーマで被災後から復旧に向けての取り組み等について報告がされました。災害対応について改めて自分ごととしてとらえないといけないのだと感じています。被災された方にお見舞い申し上げるとともに、1日も早い復旧と、平穏な日常が戻ってくることを祈っています。

(米山 薫)

図書館雑誌／3月号予告 (Vol.118 No.3) 定価1026円 3月20日発行予定

特集：書店×図書館の可能性（仮題） 予定内容＝出版業界の変革の状況を背景とした書店と図書館（柴野京子）、図書館と書店の連携として図書館へ期待すること（田口幹人）、多摩市立図書館と丸善多摩センター店との新館開館イベント等での連携（多摩市立図書館）、「信州しおじり 本の寺子屋」の取り組みと展望（上條史生）、敦賀市知育・啓発施設「TSURUGA BOOKS & COMMONS ちえなみき」の活動概要（笹本早夕里）。以上の特集のほか、〈小規模図書館奮戦記⑩国立アイヌ民族博物館ライブラリ〉アイヌ文化に関する開かれた専門図書室（工藤綾華）、〈くれふあれんす三題噺⑩上田市立上田図書館〉、〈ウチの図書館お宝紹介！⑩京都工芸繊維大学附属図書館〉等の連載記事ほかを掲載してお届けします。